昭和八年一月一日　新京日日新聞　（日曜日）　第三千六百四號　（一）
大正九年十月二十四日 第三種郵便物認可

新京日日新聞

定價 一ヶ月 金一圓八十錢
郵稅 一ヶ月 金十五錢
廣告 五號一行 金一圓三十錢
特別 同 金壹圓廿錢
發行所 新京日日新聞社（新京永樂町四丁目一番地 電話三二五番・三三〇〇番）
發行人 十河榮忠
編輯人 松本勇
印刷人 谷啓二郎

新年號
本紙十六頁

迎春の辭

歳華更新、玆に昭和八年を迎ふ由來歳暦改まる毎に吾等は新曙光、新天地を迎へたとして慶祝するを常としてゐるが、今年は却々新春を慶祝するどころではない、一陽來復と共に更に緊褌一番、その所期の使命に邁進せねばならぬスタートに起つものである、今や日本は内外多事、全く内憂外患交々到るであるがそれを排除し、日本がその使命を全くし、日本國民がその本分を盡すべきは今であらう、東洋平和、それが日本人の天賦の使命である、この使命に向つて進む途上に幾多の障害の横たはることは云ふ迄もない、東洋和平の礎を爲す、隣邦滿洲國の獨立を扶けて、不軌の徒を彊外に掃蕩して西興安嶺上に旭旗飜り、東北漸く治まり、只南邊舊東北軍閥の余孽、蟷螂の斧の愚を悟らず、隙を窺つてやまず支那本土の上下また、我邦が隣邦の友として眞に幸福の民たらしめんが爲めに盡す情誼を曲解して、聯盟に阿附して恥とせず、聯盟また衆を恃んで事毎に我邦を壓迫せんとするも、國際正義を重んじ正道を歩む我邦は毫も憚るところなく直情、徑行、聯盟も遂にその所置に苦しみ、荏苒、事を今春に持越すに至つたが前途の波瀾重疊は想像するに難くないものがある、現在の聯盟の態度は日支の利害衝突の調停よりも寧ろ聯盟それ自体のために焦慮するのみ、これより總會、十九ケ國委員會等春の日永に小田原評議を續くるであらうことは事態を愈々紛糾に導き、延いては我邦をして隱忍自重を破るの已むなきに至らしむるやも計り難きものがある、國運を賭しても其主張は貫徹せねばならぬことは云ふまでもないことである、北滿事變勃發して一ケ年半擧國一致しての我國策遂行支援も聊かその力の緩みつつあるやを感知せしむは遺憾である今年の春は屠蘇に醉ふの時に非ず、今改暦を機會に猛省一番非常時日本の國民として一大決心を要するものがあらう、年頭に際し所感を述べて新年を壽ぐの辭に代ふることとす。

日出づる國の 竹の園生彌榮に
三陛下初め各宮樣 めでたく御迎春遊さる

旭光麗かに明くれば昭和八年、竹の園生は彌榮えの程いよいよめでたく、天皇陛下には御歳三十三歳、皇后陛下には御歳三十一歳、皇太后陛下には御歳五十歳、照宮成子内親王殿下には御九歳、孝宮和子内親王殿下には御五歳、順宮厚子内親王殿下には御三歳、秩父宮殿下には御三十二歳、高松宮殿下には御二十九歳、澄宮殿下には御十九歳の春を迎へさせられた。

かしこし 御精勵の聖上

天皇陛下には御機嫌益々美はしく、御政務、御軍務に御精勵遊ばすことは常に新聞紙上に拜承する所で、御軍務に就しては昨秋十一月十一日から三日間、大阪府下並に奈良縣下に於て擧行の陸軍特別大演習に於て、御風氣にも拘はらず、親しく御統裁遊ばされその大御心には統監部はじめ上下一同感激措くところを知らず、爲に士氣大いに揚つた、演習は見事な成果を收めたと拜承する。その他陸海軍大學及陸軍士官學校の卒業式等には常に親しく行幸遊ばされ優等學生に恩賜の賞品を賜ひ、また海陸軍大臣、參謀總長、侍從武官長よりの奏上ば御日課として親しく聞し召される事は畏き極みである。一方御政務は帝國議會開院式の行幸、樞密院本會議の御親臨等をはじめ首相以下各國務大臣の奏上を聞召さるることは勿論、毎日内閣よりの上奏書類を御親裁遊ばさるるなど頗る御繁忙に渡らせらるゝが、殊に昨今の國家非常時に際しては、御日課の御運動をも御取止め遊ばさるゝことも屢々で、時には御政務の御親覽が深更に及ぶことさへあり御模樣で、側近奉仕者一同の常に恐懼に堪へざる所であると承はる。

陛下の御日課として
月曜 御進講（各方面の人をお召し）
火曜 法律（清水澄博士）、漢文（圖書寮御用掛落合爲誠氏）
水曜 樞密院本會議御親臨（本會議のない時は參集の顧問官に賜謁）
木曜 お茶の會（各方面の人を召されて御進講を聞召さる）内外使臣賜謁
金曜 法律（清水澄博士）、軍事學（陸軍、眞崎參謀次長、海軍、高橋軍令部次長）
土曜 生物學（陛下親しく吹上御苑の生物學御研究所に臨御、服部御用掛以下を相手に御研究遊ばさる）

なほ一方陛下には御健康に御心を用ひさせられ、月水金には御乘馬を、火木土にはゴルフを毎日午後二時から約二時間遊ばされるが御乘馬は極めて御練達で一米三〇の障碍物を御飛越遊ばさる程の御堪能振りで、またゴルフには時々皇后陛下にも御相手遊ばす由洩れ承はる。而しこの御運動も極めて御政務御多端の折以外は決して御廢しあらせらるゝことなき勿論である。

御婦徳高き皇后陛下

皇后陛下には、國母陛下として、晴れの御儀式をはじめ内外使臣の賜謁等の御行事の外、御婦道として天皇陛下の御身のまわりや照宮、孝宮、順宮三内親王殿下の御養育に御心を用ひさせられ、照宮殿下の御殿、舊本丸の吳竹寮へも天皇陛下と御同列で行幸啓、殿下の御修學の御模樣をみそなはせらるゝこともしばしばあり、側近者一同は深き御慈愛のほどに感激してゐる。なほ陛下にはかゝる御多忙の御かたはら、御修養の道も捨てさせ給はず、毎週月曜と金曜の二日、加藤虎之助氏を召されて漢文の御講義を聞召さるゝを御事とされてゐる。

只管御謹愼の皇太后陛下

皇太后陛下には大正天皇崩御以來、只管御謹愼の御起居を青山の大宮御所に於て遊ばされ、毎朝伊勢神宮、桃山御陵等と共に先帝御靈に遙拜遊ばすことは勿論、毎月廿五日の御命日には女官を多摩陵に差遣はされて御代拜仰付られ御親らも時折行啓御直拜あらせられて御冥福を祈らせられて在はすが本年春と伊勢神宮、桃山御陵等に御參拜の爲、關西に行啓あらせらるゝやに承はる

兩陛下御寵愛の三内親王

第一皇女照宮成子内親王殿下には女子學習院御入學最初の新年である、殿下には昨年三月兩陛下の御膝下から宮城内舊本丸に吳竹寮なる御殿を新設、別居遊ばされてゐるが、四月女子學習院前期一年に御入學以來專ら御勉學にいそしませら、この間は午前九時から午後一時半迄を學窓に過される、學習院では全く一般生徒と同樣御級友四十九名と共に教育を受けさせられてゐるが、一方御殿に於ても櫻井御養育掛長、野口事務官、塘御養育掛等が奉仕して御養育申上げ、なほ毎週火木の二日は放課後御級友のうちから數名づつが參殿御相手申上げて御修學遊ばされ、また每朝嚴寒に入つたこの頃でも、櫻井掛長、野口事務官等が御相手申上げてラヂオ體操を遊ばされ、御規律正しい御起居の程は、學友の御手本となつてゐる、孝宮、順宮兩殿下にはまだ幼ら御幼育の御時代で、伊知地、小倉兩女官が奉仕してゐるが時折吳竹寮に御姉宮成子内親王殿下を御訪問御三方御仲よく御遊戯など遊ばされると承はる

三皇弟殿下

秩父宮殿下には陸軍步兵大尉高松宮殿下には海軍大尉に在はしまた澄宮殿下には御將來騎兵を御志望あらせられて目下陸軍士官學校豫科一年に御在學中である、秩父宮殿下は皇族の御首班としてすべての朝儀に御出ましあらせらるゝ等御多忙に在はすが、御軍務には極めて御精勵で目下參謀本部の御勤務である。高松宮殿下には去る十一月目出度く海軍砲術學校を御卒業、今後は軍艦高雄に乘組ませられ海上の御勤務に就かせらるゝことゝなつたが、陸に海に三皇弟殿下の在しますことこそは、帝國の將來を一段と安固にすべき御事柄であつて上下萬民の齊しく敬仰し奉るところである

けふ宮中の四方拜 次で輝く拜賀式
兩陛下正殿に出御

希望と祝福に輝やかしく明くる昭和八年一月元旦、天皇陛下には午前五時半といふに御東帶、黄口染御袍の御裝ひで神嘉殿南庭に設けられた屋に出御、九條掌典長以下奉仕の下に四方拜の

≡御儀≡を行はせられ、長くも親しく國家の安穩、萬民の多幸を御祈願、神宮山陵をはじめ四方の天神地祇を御遙拜、更に賢所、皇靈殿、神殿に於けふ歳旦祭に出御、三殿に御拜遊ばされ、一旦入御の上午前八時晴れの御膳に着かせられ、更に同十時から皇后陛下と御揃ひで宮中正殿に出御晴れの拜賀式を行はせられる、天皇陛下には輝やく陸軍大元帥の御正裝に大勳位菊花章頸飾を御佩用、皇后陛下にはきらびやかなマント、ド、クールの御裝ひで學習院在學の選ばれたる紅顏の少年御裳を捧じて同十時半先づ鳳凰の間に出御秩父宮、同妃、高松宮、同妃閑院元帥宮各殿下はじめ皇族方に御對面、年頭の御祝詞を受けさせられる、一方この日拜賀式に參内の東鄕、山本大勳位、齋藤首相以下各國務大臣、倉富、平沼正副議長以下各樞密顧問官淸浦、若槻等の前官禮遇、陸海軍大將、親任官、貴衆兩院議長、公爵以下勳一等以上同夫人、並に勳一等外國人同夫人等何れも大禮服又は正裝に綺羅を飾つて二重橋正門より參入式部官の誘導で正殿に參進すれば、兩陛下には林式部長官、一木宮相、廣幡皇后太夫先丸前行、鈴木侍從長、奈良武官長、竹屋女官長以下供奉各皇族方扈從して出御、中央の一段高き玉座、御座に着御

≡拜賀≡を受けさせられ、終つて同十一時よりは高等官一等以下勅任待遇以上、同夫人その他の宮中奏任官、同待遇の拜賀を受けさせ給ひ一旦入御更に午後一時三十分再び正殿に出御、トロヤノフスキー露國大使はじめ各國大使同夫人の拜賀を受けさせらるる御豫定である

大宮御所の元旦

愼ましやかに御越年遊ばされた皇太后陛下には一日午前九時から午後四時迄の間、大宮御所に於かせられて文武官有資格者並に神佛各宗派管長門跡寺院住職の參賀を受けさせられ、二日も御同樣參賀を受けさせらるる趣に拜す

年頭所感
内閣總理大臣 齋藤實子談

國家は年毎に彌々榮えて行くの理想を以て進まなければならない離闘よし其の前途に横はるとも之を突破して進むの意氣なくしては到底國家存立の使命を完うする事は出來ない、國家の生命は永遠にして離闘の阻止は一時の現象に過ぎないから此一時の現象の爲に永遠の生命を危くするが如きは斷じて執るべからざることである、況んや萬代不易に傳へられたる皇國の使命は前途倘遼遠にして幾多の離闘の進路を阻止するものあるべきは覺悟しなければなるまい

×

昭和七年は洵に多事多難の年であつた恐らく今年も亦之が續くであらうが其の間にも皇國の地歩は着々として進みつゝあるは慶賀の至に堪へない、試に昨年頭に於ける滿洲問題の前途未だ明かならざりし、滿洲國既に獨立を遂げ之が承認と共に我外交の旗幟頗る鮮明に堂堂世界に正義を披瀝しつゝある今年頭とを比較して見よ、東亞永遠の平和に寄與せんとする皇國の使命に於て一歩を進めたるを知る事が出來る、又財界の不況尚未全く回復せずと雖も農村漁村の疲弊都市の困憊に對する匡救對策略其の緒に就き民の間にも亦更生の聲自ら湧き今や其の實現に努力しつゝあるもの少からざるを聞くは誠に委靡沈滯せる昨年頭に比して一段の生氣を帶び來たれるを見る、されど予は此の如き事例を舉げて敢て樂觀を國民に強いるものではない、國步の艱難は寧ろ今後に在り生活の安定には倘幾多の問題が遺されて居る、加ふるに詭激なる思想は倘潜行運動を怠らず險惡なる世相は未だ全く更改せられず今年の多事亦昨年の如きものあるを思はざるに非ざるも受難は試練であり忍苦は体驗である、此受難忍苦を繹來つて志益々堅きを見る國民精神の醞釀的の間に流動しつゝあるの事象は決して悲觀の材料のみを提供するものではない我國民には二千年來養はれ來つた立派な素質がある、此素質は如何なる國難に遭遇するも之を克服せずんば已まざる確乎たる信念と敢然として勇壯邁進する意氣となつて我國民性を淘冶し祖先の脈管より吾々に傳へ來つたもので或る時に時代の流弊に掩はれて心裡の奧底に潛むことも一度難局に際會すれば勃然として迸り出で滿洲事變が起れば皇軍將士の忠勇義烈なる行動と九千萬國民の一致團結したる後援として顯はれ又國民更生の運動が開始せらるれば忽にして全國各地に反應し到る處更生の實を舉げつゝある事は此精神の發露を見るべき機微の間に流動しつゝある、國民覺醒の氣運は新興日本の將來を暗示するものとして欣快の情を寄せざるを得ない、此國民覺醒の氣運に乘じ一片の至誠官民相通じ擧國一致速に此難局を打開し皇國の一大使命たる東洋平和の確保と刻下の急務たる社會福祉の增進とに努力精進し以て年毎に彌々榮え行くべき國家理想の實現に一歩を進めん事を切望して已まぬ次第である、新年頭に際し聊か所感を陳べて大方の協力を望む

建國最初の滿洲國の新年

滿洲國に於ては建國最初の新年を如何に祝すべきかに就て關係各方面に於て寄り寄り協議の結果左の如く決定を見た

△執政府　元日、簡任以上の高官は燕袍に青馬掛兒或はモーニング姿に服裝を整へ午前十時迄に相前後して執政府に參入、先づ掌禮處に各自名刺を提示して謁見室に參集、午前十一時以上の高官連は候見室で執政に賀年の辭を述べ一同退出二日正午執政は武藤大使、小磯參謀長、岡村同副長其他在新京諸外國の領官約六十名を又三日には滿洲國簡任官以上にして要職にあるもの約六十名を夫々新年午餐宴に招待されることになつたが當日の午餐宴は盛大を極めるものと豫期されてゐる

△國務院　元旦、鄭總理以下特任官各院部代表者、興安總署代表、參議府、總務廳法制局官吏等相次いで會議室に參集、紅藍白黑滿地黄の大國旗に向つて一同鞠躬の禮をなし式を終る、時に午前十時半の豫定である

△各院各部　各院部に於ても大體國務院に於ける年賀式に則り夫々盛大莊重に執り行はれる事になつてゐる

大使館

大使館では十時半から正午迄大使官邸、新築總領事館官邸に於て拜賀式を擧行

軍司令部の元旦
一日中酒保で祝杯

一月一日午前六時三十分軍司令部職員は營庭に集合し小磯參謀長一同を代表して武藤司令官に新年の祝辭を述べ司令官の發聲にて聖上陛下の萬歲を三唱し終つて御眞影を奉拜午前十時より一日中酒保に於て祝杯を擧ぐ

新年互例會

滿鐵新京地方事務所の元旦は恒例により午後一時から互例會主催で商業學校講堂で一般市民の名刺交換會が催される

商業學校と高女

商業學校は例年通り午前九時から同校講堂に於て拜賀式擧行した
高等女學校では午前十時から職員生徒、の拜賀式を同校講堂にて行ふた

新京郵便局

新京郵便局は午前十時から局長室で局員の拜賀式を擧行

新京署

新京署では午前十時から講堂に於て遙拜式をなし終つて振武館にて祝宴を行ひ十時三十分から偕事館で拜賀式を擧行した

本社の元旦

本社は午前十時半十河總務以下全員參集遙かに東方を拜し聖壽萬歲を祝した

新春頌詞

關東軍司令官 陸軍大將 武藤信義

昨秋八月乏しきを以て大任を關外に拜し、九月に入り帝國が列强に先んじ滿洲國を承認するや日滿議定書調印の事に當り、十一月以來新京に移駐して今日に及んだ、此間約半歲今や建國第一周年の新春を迎ふるに方り滿洲國建設の大業が日に月に進展するの狀を目擊し、欣快眞に禁ずる能はざるものがある。

滿洲建設の事は蓋し難中の難事、而も、舊軍閥潰えて一歲建國を宣して十ケ月を過ぎざるに其基礎既に成るを告ぐ、首を回らして昨春を想ひ、之を今春眼前に見る所と比する時、萬象面目を一新せるに驚くと共に、其急速なる步武の進展を祝せざるを得ないであらう。

果して何者が今日を齎らせしか。天の時乎、あらず。地の利乎、あらず。東洋の平和と人類の福祉とを切望せんとする大理想の下に日滿兩族共存同榮の大旆の下に、兩國民が提携協和の實を擧げたるに依る。吾人は今更の如く、古人が人の和を强調せる所以を思はずには居られぬ。

日滿兩國の死活は滿洲建國の成敗に依りて決し、東洋復興の如何も亦之に繫る。而して此問題は現に世界の重大事として國際的に取扱はれてゐる。寿府に於ける國際聯盟會議は之を中心として紛糾しつゝある。帝國代表は滿洲國獨立の自然性と必然性とを明にすべく努力し、帝國々民は一致之を後援しつゝある。惟ふに世界列强と雖も帝國の正義を抑壓し能はぬ、滿洲國民の幸福を蹂躙し能はぬ。必ずや近き日に於て日滿兩者の希望に添ふが如き圓滿なる解決を見得べきことを確信する。

幾多の難關を過ぎて時は逝き洋々たる希望を前にして年は改まる。昭和新政の第八年滿洲建國の大同二年は斯くして來る。而して新春は新興の東亞、活潑々地の新國土に必ず先づ其光輝を齎すであらう東洋の諸國は其光輝の中に更に強く其手を握るであらう。亞細亞の諸族は其光輝の裡に希望の前程を認識するであらう。吾人は切に之を禱るものである。

迎春に際し 松岡代表メッセージ

【ジユネーヴ發國通】昭和八年の迎春に際し帝國代表松岡洋右氏から日本全國民に送るメッセージ左の如し

「聖天子東方に在はす吾れ今曉東天を拜す」

此の言葉こそ昨年十二月八日四小國の決議案に對する撤回要求動議を提げ總會に臨んだ朝の予の心境である新年を迎えて予は今一度此の言葉を茲に繰返し國民諸君と共に昭和八年を雄々しく強く踏み出したい國際聯盟は我が帝國が出發點的基礎的條件として主張する滿洲國の嚴然たる實在の承認に關し未だ調和點を發見し得ずに若しんで居るが予は決して無理と思はぬ

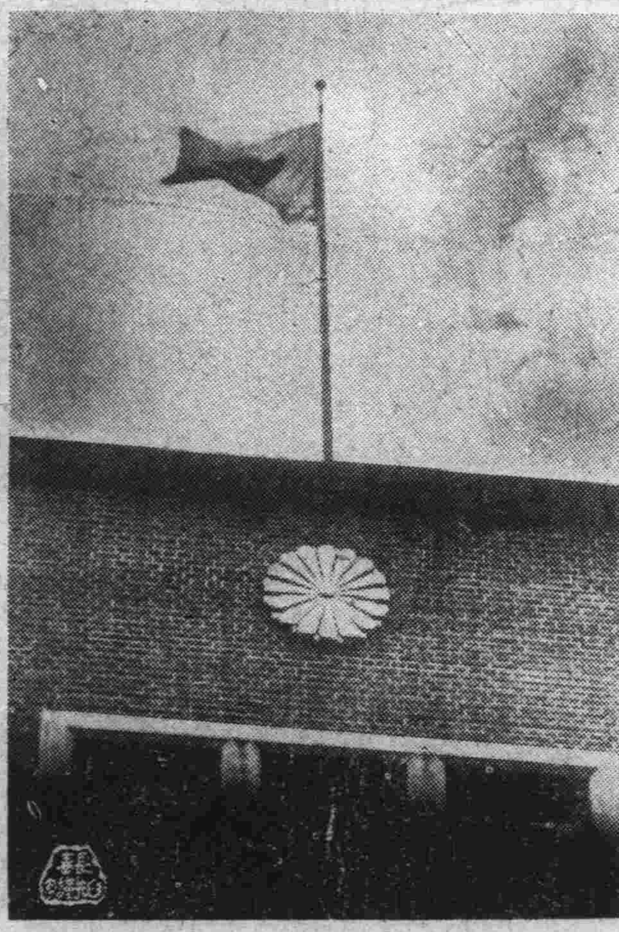
×

イギリスのサイモン外相へも强調して置いた通り日本人は日本人だアングロサクソンには成り得ないアングロサクソンも日本人には成る事は出來ぬ、歐米人の眼と日本人の眼とは物の見方が大分違ふ歐米の物質文明の尺度を以て日本精神を計る事は所詮出來ない併し最實は結局總てを貫くアメリカのノーマンデーヴィス氏とは最も卒直に打ちまけて話をした、初めは先方も顏色を變へたが二度の會見で予の言ふた事は能く了解されたと信ずる

×

日本人を何の粉飾もなく裸体のまゝで突き出すまでの[illegible]なのである滿蒙は日本の生命線として素より重大であるが若し此の問題を機縁に日本精神を世界に宣示する事が出來るならば世界は更に幸福になるであらう、横井小楠先生はその嗣子が米國に留學せんとする際餞別の言葉として「大義を四海に布く」と云ふ句を與へられたがこれである此の日本精神の全世界への徹底さへ出來れば東洋平和及び世界平和に偉大な步武を進めるであらう事を疑はぬ、這んな考方には小國も大國も差別はない我國には今や一大革新の時が迫つて居る併し之は日本精神の回復の惱みであつて決して物質文明へ追隨の爲めと變化ではない予はモスクワの國立劇場で勞動者が最高藝術鑑賞の機會に均霑して居る事を面の當り眺めて痛く心を動かした併し予はカールラデツク氏と會談した時大革新を經た後の日本は外觀は或は貴國と可成り似たものになるか知れんがその實質には千里の差がある日本精神は貴方等の社會的政治的共產黨主義とは全く違ふと告げて置いた。今こそ我等が日本精神に目醒めしむべき時である。大和民族寄つて一團の火柱とならば何物が燒き盡さざるものあらうか。

昨年十二月八日の總會席上原稿を持たず無準備のまゝ無意識的に迸り出た「日本は磔刑をも甘受する度量を定めてゐるのだ」といふ言葉こそ眞に今の日本の姿と心とを映してゐると信ずる之は神樣が予の口を藉りて天の意思を全國民の耳に響かせられたのであると思はれる而して此の言葉が如何に聯盟及び全世界民衆に響いたかは國民諸君の既に御承知の事と思ふ右の結果は勘くとも予に勇氣を與へ我等の正義が日本精神が何時かは世界に普く理解させるに至るであらうとの確信を强からしむるに至つた、二千年前基督を磔刑にした人類は今は其基の前に跪いてゐるではないか人類が軈て日本の眞意を悟り更に日本に衷心からの感謝を捧ぐる時が必ず來る只今日忍耐が大事である「倦まず撓まず」をモツトーとして昭和八年の年頭に際し自らの姿を大廟の神鏡にかけ一點の曇りなき良心と信念を以て大和民族の眞の大使命に向つて精進せんことを互に誓はんとする次第である。



軍司令部の屋上高く日章旗は飜めく (白井榮次氏謹寫)

酉年名士 (1)

西園寺公望公

閑院太政大臣公季の後裔で八清華の一、嘉永二年生の八十五、明治以來の功臣として元老の優遇を享く、號陶庵文事を嗜む

王道と滿洲國

滿洲國國務總理 鄭孝胥

當世列國用ゐて以て國民の思想造成する所のもの豈に愛國を曰はざらんや用ゐて以て國民の能力を養成する所のもの豈に軍事教育を曰はざらんや各國其國民を練習する所以のもの惟だ人後に落んことを恐る、豈に知らんや愛國の宗旨は則ち仇外の對象たり、軍國民の資格は即ち戰禍の先聲たることを、これ皆威を建て覇を圖るの策にして世界の戰禍已に習慣の中に醸成され、因を種て果を得、治安を破壞し人類をよ滅するに至らざれば止まず、且つ電力火器の技日に進み未だ已まず、軍機の精軍費の鉅皆往日に百千倍す、戰爭未だ決せず、而して人民の死亡財用の耗竭已に立ごころに見はる矣。王道は乃ち今日起死回生の良藥、世界の戰禍を消して之を安居樂業の途に致すもの也、果して王道を行はんとせば必ず先づ愛國の思想を蕩滌し、而して博愛を以て主となし必ず先づ軍國の教育を革除し、而して禮儀を以て先となす

君子は位あるもの、稱、己を修めるに敬を以てするは所謂情慢邪僻の氣、四体に設けざる也、己を修めて以て人を安んずるは所謂老者之を安んじ朋友之を信じ、少者之を懷くる也、己を修めて以て百姓を安んずるは所謂禹天下溺るゝ者あれば猶ほ己之を溺らすが如くなるを思ひ、稷天下飢る者あれば猶ほ己之を飢やすが如くなるを思ふ也、堯舜天下の任を以て己を責む、故に禹稷と同意

子貢曰く如し博く民に施して能く衆を濟ふあらば何如、仁と謂ふべき乎、子曰く何ぞ仁を事とせん必ずや聖乎、堯舜すら其れ猶ほ諸を病めり、夫れ仁者は己立たんと欲して而して人を立て、己達せんと欲して人を達す、能く近く譬を取る仁の方と謂ふべきなるのみ

博く施し衆を濟ふ、其功成り難し、之を人に求めば終に止境なし、返て而して己に求むるに如かず、己立たんと欲して人を立て、達せんと欲して人を達すれば則ち小よりして大、近きよりして遠きに及ぶまで步々實を踏み功成るを待たず、而して感應の效一日千里、此即ち踐履の實地、擴充の要術なり

大舜は焉より大なるあり、善人と同ふす、己を舍てゝ人に從ひ人に取て以て善を爲すを樂しむ、耕稼陶漁より以て帝となるに至るまで人に取るにあらざるものなし、諸を人に取て以て善をなす、是人と善をなすもの也、故に君子人と善をなすより大なるはなし

舜庶人を以て天子となり、己を舍てゝ人に從ふを以て行となす故に天下之に服す、諸を人に取て以て善をなすに至ては則ち審く人己の見を除く矣

孟子曰く、人を愛して親まずんば其仁に反れ、人を治めて治まらずんば其智に反れ、人に禮して荅へられずんば其敬に反れ、行ふて得ざるものがあれば皆反つて諸を己に求む、其身正ふして天下之に歸す

行ふを得ざるものあり而して之を人に求む、此れ天下の常に亂るゝ所以、王道の行はれざる所以なり、諸を己に反求すれば則親まず治まらず答へられざるの故、顯然目易く感應の機影響より捷かなり、王道行はれ易き端に信ずべし矣

以上皆王道の要術人己の間に在るを證明す、大學一篇王道具體の學たり、宋の眞德秀著大學衍義の一書參考に備ふべし

王道の學は之を內聖外王の學と謂ふ、王道は至て大なり、而して之を大に求むる能はず、王道は至て遠し、而して之を遠きに求むる能はず、然らば則ち王道安くに在る乎、今一言を以て之を蔽へば曰く人己の間に在るのみ、內聖なるものは王道の己に應ずるもの也、外王なるものは王道の人に屬するもの也、更に孔孟の書を引て以て之を證す

顏淵仁を問ふ、子曰く己に克て禮を復むを仁となす、一日己に克て禮を復めは天下仁に歸す、仁をなす己に由らんや

天下仁に歸するは乃ち王道の機則なり、其此れを致す所以のもの乃ち克己復禮に在り、人己感應の機、微に以て至顯綫に以て至捷、蓋し必ず之を事實に驗し、而して後人に求むるもの徒らに努して而して益なきを知る、發動の力固より此に在て彼に在ざる也

子路君子を問ふ、子曰く己を修むるに敬を以てす、曰く斯の如きのみか、曰く己を修めて以て人を安んず、曰く斯の如きのみか、曰く己を修めて以て百姓を安んず、己を修めて以て百姓を安んずる堯舜すら其れ猶ほ諸を病めり

孝胥王道己を修むるの學を編し、分つて四課となさんと欲す

曰く敎義、曰く數議、曰く戒傲曰く戒貧、書猶は未だ成らず

大同二年元旦

王道或問

或ゝ曰く、當世各國愛國の思想を造成し、並に軍國民の資格を養成するに汲々たらざるはなし、今乃ち獨り王道學說を倡へ博愛を以て資本となし禮義を以て器械となし、戰具を製せず武力を蓄へず列國をして忌で而して之を陵がしめは、則ち將は其爲す所に聽せて而して抵禦を施さゞらんとする乎、曰く然らず、此れ乘併の時代に在ては自ら保つの武力なければ、則ち誠に以て自ら存するに足らず、ナポレオン及ウキリアム二世既に吞併を以て失敗す、今日各小國の獨立するに足るもの、其の毒なく且つ害を爲す能はざるを以てなり故に各大國も亦相覦を動くことなし、蓋し均勢の局將に吞併を以て變ぜんとす、然らば則ち小國の安危は即ち大國の安危なり、彼のローザンヌ及ヂユネーブの議場は皆瑞西に設けらるゝを觀るに豈其衆忌を招かず、反つて世界の華胥たるを以てに非ずや、若し王道の國にして亞洲に興らば則ち當世の列强固より利あつて而して害なし、戰具を製せず武力を蓄へずと雖も、而して擧世の戰具武力嘗に我に代て抵禦を施すのみならず、忌て而して之を陵ぎ以て其無理の行爲を肆にせんと欲するも、恐らく釁端に難く而して而して天下の不韙を冒す矣、比年以來擧世已に厭兵の時代に入る、王道果して行はるれば擧世の思想必ず將に改變し、軍縮弭兵の進步に意外の迷化あらんとす、慮る所のものは唯共產政策なり、彼の持して世界を傾覆せんとするの計畫は、將に我を以て思想の勁敵となさんとす、其勢必ず兩全なる能はざるもの也

大同二年元旦

大同二年元旦祝詞

洪維新國 屹峙亞東
樹獨立幟 鳴自由鐘
王道主義 貫澈始終
熙熙盛治 泱々大風
履端肇慶 春景和融
千秋萬歲 以延無窮

臧式毅

年頭所感

滿洲國參議 駒井德三

滿洲國建國第二年を迎へ、過去を追想し將來の發展に資せんとするは徒事でないであらう、おもへば建國一年は文字通りの多忙のうちに暮れ、馬占山の叛亂、聯盟調查團の來滿、日滿議定書調印、滿洲里事件の發生等々、然しながらこれらはいづれも滿洲國の礎を愈々鞏固にし、將來への發展の礎石となつたに過ぎぬ今や滿洲國內は、治安漸く安定、產業勃興の氣運にあり、外、日本との國交益々敦厚親睦に、蘇聯との關係も日に增し親善を加へ、歐洲各國また漸次滿洲國承認の趨勢にあり前途愈々多幸、國運の發展見るべきものあるに至つた、この時われ等は協力一致、同體一心、內政の改善、富源の開發、產業の統制、貿易の振興に全力を盡し滿洲國を一個理想的王道國家に育て上げもつて世界列國の面前に、この國が極東の平和世界人類の康寧增進の上にもつ其の重大な意義を顯示し、誤れる認識を是正し、滿洲國本來の面目を把握せしめると共に日本のこの國における特殊なる地位を公然と示するところあらねばならぬ、余は正義を語りこれを實行するに何の恥づる必要あるを認めない、信ずるところを斷乎として行ひもつて終局の勝利を制せんとするものである。

滿洲建設の途上に立ちて

關東軍參謀長 陸軍中將 小磯國昭

滿洲國に建國第一周年の新年が訪れた。外ではまだ酷い嵐が逆卷いてゐるが、骨に徹するの嚴寒を凌駕し來つて滿洲國の春は多實に蘇つた。滿洲國は方に活潑々地の躍進を示してゐる。

先づ治安を觀よう、反將馬占山、蘇炳文等の潰滅に因て北滿は大体治安を回復した。黑龍江省並興安省の建設作業は着々其步を伸ばして行くこと疑の餘地なく、危險地帶とのみ考へられて居た北滿に近代的企業の榮える日も決して遠い將來ではない。

南滿、特に奉天省の肅清計畫は夙くも大半を完了した。即ち舊臘東邊道及瀋海線北滿一帶地區の工作を終り安奉線西側地域の肅清亦近きにある此くして奉天省の西部、東北吉林省及熱河省の治安は次々に恢復せられ全滿に亘る治安工作は必ずや年內に顯著なる成績を擧け得べきを信ずる。

我等が行つてゐる所の肅清は單なる匪賊の討伐ではない敎化宣撫の爲の宣傳及政治工作が伴つてゐる。否、それが中心主体である。從て討伐と同時に地方行政組織の確立と改善とが行はれて行く、民衆の利益が護られ民衆の理解が深められて行く。斯くて希望は日每に濃厚となつて來た。

巷間關東軍の兵力過少を論ずる者がある。確に過少と云へば云へる增兵が可能ならば斷行に如くはない。併し吾人は國步艱難の今日、より以上の國帑の支出を求めるに忍びない。より以上に國民の負擔を增すに忍びない。且我等は寡を以て衆に捷つべく訓練されてゐる。數の不足は心力を以て補ふことを覺悟してゐる之が皇軍の貴重なる習性である。されば現兵力を以て進める所まで進む決心である。

次に交通通信の方面を觀察しよう。交通通信は治安恢復及經濟開發の爲の動脈である神經系統である。滿洲國鐵道は蓋し年內に於て著しく其經營が改善され、面目一新の第一步に就くであらう。新線敷設計畫の完成してゐるのは勿論、既に實行に着手し、或部分は最早列車を通じてゐる。

航空に於ては、滿洲國航空會社の創立を見、日本航空輸送會社と連絡して國際航空路の建設に貢獻してゐる。電氣的通信の日滿合作や、內河就中松花江航行業の發達等數へ來れば本年も隨分多忙の年と云はねばならぬ。

更に財政經濟方面を觀よう滿洲幣制の紊亂は世上周知の事であるが、滿洲國は斷然貨幣の製造發行權を政府の手に收め、中央銀行をして新貨幣を發行せしめた。現在の正貨準備率は實に五割强で日本銀行の準備率よりも多い。中央銀行紙幣が日本正金銀行券と同價格を維持してゐるに見るも幣制の確實性を判斷し得よう。

支離滅裂の舊貨幣に對しては整理辦法が發布され、中央銀行は之が回收にかめてゐる。現在已に三割以上の回收を終つた。今後二年にして全部の回收を終る見込である。此くして今後民衆は再び紙屑同樣の紙幣を摑ませられる憂はなくなつた。

舊來の財政制度は軍閥の私利に基いて定められた。從てたゞ歲入を目的の搾取行爲が行はれただけである。官吏は上下の論なく私腹を肥すに急であつた。而して東三省の歲出八割以上が軍費であつた。

然るに滿洲國は建國の三月から直に財政の整頓に着手し七月第二期に入り問題の海關接收を斷行し建國後僅に七ケ月にして財政の前途に光明を齎した。

豫算は總計一億一千三百三十萬八千元、其總額に於ては舊時代の夫れに近いが其內容に於て雲泥萬里の相違がある第一生活必需品たる鹽の課稅の如き張良時代の二分の一、內國稅また二分の一以下で軍費に至つては三分の一に過ぎないのである。

勿論第一年度の豫算はまだ完全とは言ひ得ないが今から治安が定まればそれだけ收入は增加し、それだけ財政は鞏固になる。我等はそれを期待してゐる。

今年度の特產物の出廻は頗る活況を呈してゐる。滿鐵線の如き數十年來未曾有の數字を示してゐる。滿洲經濟回復の反映でなくして何であらう工業の如きも、奉天を中心とし大連、哈市を策源として既に躍進の氣勢を示し年內における現實化は相當目覺しきものがあらう。

滿洲の經濟界は地方民心の安定、秩序の回復と共に漸く活氣を呈して來た。此くして滿洲の春は如實に蘇つた。洋々たる希望を前に見て蘇つた然し今や大きな呼吸をついて蘇つたばかりである。將來の希望をして眞に洋々たる成功を齎す爲には更に更に大なる覺悟と努力とを要する。就中內外政務の統一整備と經濟的開發とは、日滿官民の特に力を用ひねばならぬ重點であらう。

吾人は無限の喜を以て滿洲國の新春を迎へた。そして昭和八年、大同二年の眞に多忙であることを自覺する。

年頭所感

滿鐵總裁伯爵 林博太郎

昨昭和七年は日滿兩國にとつて誠に多事多端を極めたる重要な年であつた。即ち、此の一箇年に於て滿洲國の完全なる統一國家として獨立し日滿兩國の政治的基礎は全く確立したのである。

然れども、一方眼を經濟的方面に轉ずるとき、或は滿洲國の產業開發に或は日滿經濟關係の統制に未だ成すべきこと多くして、前途甚遼遠なるものがある。

而も、經濟は各般に亘る諸社會關係の本源にして一日もこれを忽にするを得ないが故に此の昭和八年こそは必ずや滿洲國及日滿關係に於ける經濟的建設の年であるであらう。

過去一箇年間に於て斯くも幾多の大事を成し遂げ得たる日滿兩國人の一致協同と奮闘努力とを以てせば、滿洲國及日滿關係に於ける經濟的建設の大業と雖其の成功の日必ずや遠からざるべきを信ずるのであるが廣く全世界の國際經濟に關聯し利害亦岐るる所多きを想へば其の前途に盤根錯節の蓋し少からざるべきは之を覺悟しなくてはならない。

今や日本の經濟は非常なる困難に直面してゐる此の時に當つて滿洲產業の開發及日滿經濟統制の問題は獨り之を直接其の使命とする滿鐵等の責務たるのみでなく、實に全國民の最大關心事であるのだ

滿鐵及滿鐵人は此の昭和八年を迎ふるに當り其の重大なる責任を自覺して心中自ら懼然たるを禁じ得ないのである。

新年詞

外交部總長 謝介石

浩浩滿洲屹居亞東白山黑水靈秀斯鍾外界日俄內絡東蒙金元以降泱々大風去歲仲春巖然建國軍閥驅除醫誰之力如龍乘雲如鵬奮翼庶績咸熙王猷允塞星移物換時日新年勵精圖治有開必先斯征斯適無黨無偏建元大同厥義洪宣願我人民生機日暢貼我同胞忠誠是唱願我鄰邦交歡禮醮萬歲三呼幸福無量

大同二年

謹賀新年

明けまして御目出度う御座います

舊年中は一方ならぬ御寵愛に預りまして誠に難有う御座います、何卒本年も不相變御引立の程伏して御願ひ申上げます

尚元旦、二日、三日、四日、五日共に平日通り午後七時より開館致しますので御家族樣御誘ひあはせの上御來館の程御願ひ申上げます

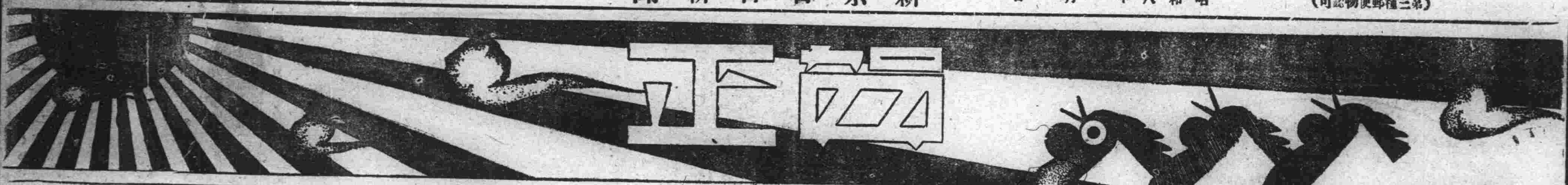
ダンスホール 新京會館

日本橋北詰新京ビル三階 電三七三七

謹賀新年

新京日日新聞社

編輯部 營業部 印刷部



滿洲國參議府 參議一同

國務總理 鄭孝胥
立法院長 趙欣伯
民政部總長 臧式毅
外交部總長 謝介石
軍政部總長 張景惠
財政部總長 熙洽
實業部總長 張燕卿
交通部總長 丁鑑修
司法部總長 馮涵清
文教部次長 許汝棻
興安總署總長 齊默特色木丕勒

滿洲國中央銀行

總裁 榮厚
副總裁 山成喬六
理事 鷲尾磯一
吳恩培
武安福男
劉燏棻
五十嵐保司
劉世忠
監事 闞潮洗

新京警察署長
高山勝司

新京商工會議所
會頭 永原岩雄

長春洋火工廠
佐藤精一

新京鐵道事務所長
青木信一

滿洲國通信社
里見甫

大阪毎日新聞社
櫻井重義

大阪東京朝日新聞新京支局長
中村桃太郎
日本橋通八〇

滿洲日報社
支社長 南里順生

大連新聞社
支社長 高橋勝藏

東京時事新報社
新京支局
稻垣兵治

新京醫師會
同仁醫院 市橋貞三
善生堂醫院 河野五百里
杏林堂醫院 中島信之
中市醫院 中市一雄
福島醫院 福島一郎
堀山醫院 堀山研作
松本醫院 松本要太郎
槇醫院 槇吉治
(アイウエオ順)

日本電報通信社
支局長 藤井祥正

輸入組合
理事 久末吉次

新京市場株式會社
砂原滋二

南滿瓦斯株式會社
支店長 五十嵐榮一

新京東本願寺
大谷派關教使 畠山賴哲

新京西本願寺
布教使 南部法電

怪人凱歌

（舞臺上演・映畫化）須藤鐘一　（畫）瀧秋方

（百七）

雪の日（一）

今日は午後から霙まじりの冷雨が降り出したので、さなきだに暮れ易い冬の日が、もう五時うつととつぷり暗くなつて、室内では電燈の光りを借りなければならなかつた。

ヴイナス美容院の笹川院主は此の三四日、風邪で根岸の家に引きこもつてゐるので、臘田眞佐子はテンテコ舞ひをするやうな忙しさである。

一番古參の助手清瀬鈴子は、例の事件があつてから、眞佐子に顏向けが出來ないとでも思つたのか暫らく病氣と稱して休んでゐたが結局ヴイナス美容院を退くことになり、最近では麻布で西洋人の經營してゐる美容學校の方へ出るやうになつたさうである。それでも[illegible]したもので、時々は銀座へも出かけて、眞佐子とも顏を合せることがあるけれども、あの晩の事は、まるで忘れたやうにケロリとしてゐる。

その清瀬がゐなくなつてからは眞佐子が其の代りに助手達を取締つて、時には院主代理もせねばならぬので、彼女の忙しさは一通りでない。

その忙しさが、しかし却て彼女の心に彈力を與へた。いろんな惱み、悲しみ、苦しみをすつかり忘れさせた。さうした其の日／＼の忙しさは、彼女の心をも身體をも常に緊張させずには措かなかつた。緊張してゐるから、恐ろしい誘惑も惡魔も、つけ入る隙間が見出せなかつた。

思ふに、人生の行路は不斷の活動である。絶えず緊張した氣持と身體を持續することが出來れば、それが一番生き甲斐のある生涯ではあるまいか。

又、人間は極めて精巧なる機械であるとも云へる。ちよつとした齒車の故障にも、調革の弛みにもすぐに回轉が狂つてしまふ。心身の健康なる緊張が、人間といふ機械の最もよきコンデイションである。それはたとへば、機械が少しの狂ひもなく、油をたつぷり含んでなめらかに回轉してゐる狀態である。

眞佐子の昨今がちやうどさうである。電田義行の主人も、どうしたのか其後一向姿を見せず、笹原伯も政治季節に入ると共に、新政黨の組織とかに夢中になり、暫らくこちらへは顏を見せない。さうした猥褻漢が姿を消し、未だ新しい虎も現はれず、彼女にとつて一番長閑な時である。

さつき、今晩の夜會に行くといふので自動車で駈けつけた山科子爵夫人の髪と化粧を、すつかり仕上げたのが六時、それから眞佐子は急いで院を出た。

ドアを開くと、霙まじりの寒風がさつと一しきり吹き過ぎて、スカートをあほり、頸にしみた。

『おゝ寒！』と、覺えず獨言つてショールをしめ、小走りに銀座通りへ歩き出した。

病床にゐる笹川院主の事が氣がかりなので、ノロ／＼した電車で歸るよりも、圓タクを掴へて根岸の家へ急がせやうと、曲り角まで來たところで立ちどまり、街路の左右を見廻した。

ほんの一足ではあるが、通りへ出れば晝を欺くばかりに明るい銀座であるのに、此の横丁は、雨の降り出したせゐもあるが、まだ宵の口だのに、人の往來も稀で、何だか郊外の夜ふけのやうな淋しさ暗さである。

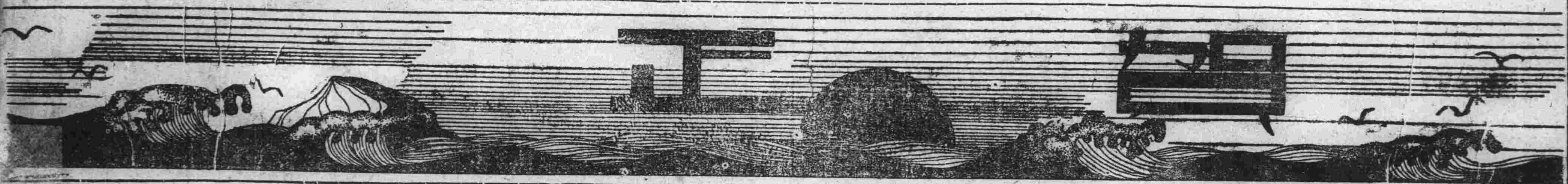
暫らく立つて居たが、圓タクは中々見當らなかつた。で、思ひ切つて通りへ歩き出さうとした時、ふと彼女は耳をすました。つい五六間の先で、人々の罵り騒ぐ聲がしたからである。

あたりが暗いので、その姿は見えない。

三四軒目に、まだ震災で焼けたまゝの屋敷跡がある。天氣のいゝ日には、そこで大道香具師がいかゞはしい齒の藥を賣つてたり、支那の蛇遣ひが、投錢をもらつて、口から入れた小蛇を鼻から出して見せたりする。

今、怪しき喧騒の起つたのは、多分其の屋敷跡であらうと思はれた。

眞佐子が急いで立ち去らうとしたとき、また烈しい叫び聲が起つた。



滿洲協和會
會長　鄭孝胥
理事長　張燕卿
中央事務局長　謝介石

日清燐寸株式會社

新京取引所
信託株式會社

株式會社　吉林燐寸
新京支店

國際運輸株式會社
新京支店

新京警察署
高橋重利
千葉宗正
齋藤要助
今江米太郎
倉田庄五郎
山見慶三郎
藤井四郎

新京驛區長一同

（イロハ順）
室町小學校　上原種豐
補習學校　松田嘉兵衛
普通學校　笛木俊夫
公學校　小林治郎
高等女學校　江部易開
商業學校　東一郎
西廣場小學校　瀨川順平

滿洲土木建築協會
新京支部

新京
競馬倶樂部

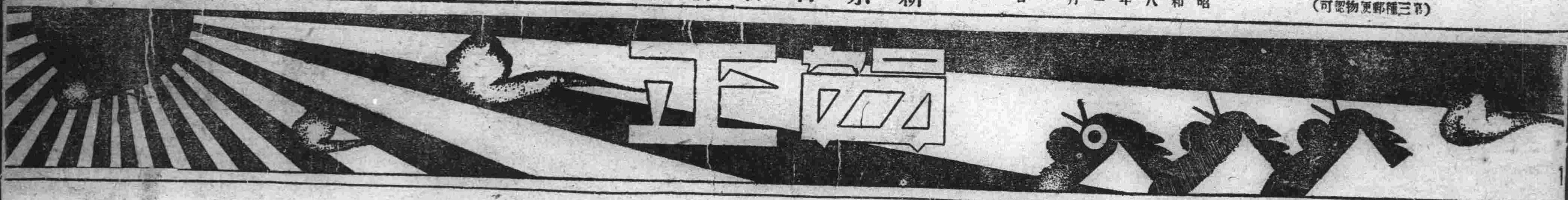
新京
滿鐵醫院一同

合名會社　大阪橋本組
新京出張所
佐々木大壽計
電話三四三一

土木建築請負
諸機械及自動車
赤貝印揮發油類
煉瓦製造販賣
株式會社　福昌公司
新京出張所
電話二六九七番
本店大連市山縣通二六

今井組出張所
石原三二郎
吉野町二丁目
電話三二一九八番

合資會社　蔦井組出張所
砂田喜八
梅ヶ枝町四丁目
電話三八四九番



八島通二二四番地
關東軍酒保
代表 田中茂太郎
電話 二六七九 / 三九二七 番

滿鐵指定石炭販賣店

松茂洋行 電話 二〇四二 / 二五三七 番
大昌煤局 電話二五三九番
裕新公司 電話三三一三番
仁和洋行 電話 二五八二 / 三四七一 番
泰利號 電話 三一六九 / 二七六〇 番
加藤洋行 電話二〇三三番
泰山行 電話二一五六番

國際運輸株式會社
支店長代理 松尾光次

田中勳

古川富夫
小澤歯科醫院

三宅牧場
三宅濱治

中央通五〇番地
本田商會支店
電話三九三三番
本支店、旅順、大連、奉天

福信金融
株式會社

石炭貿易
仁和洋行

日本橋通り
品川洋行支店
和洋家具、世帯道具
窓かけ、敷物
リノリユーム
文房具、洋品雑貨
陶磁器、建築材料
本店 大連 支店 奉天
電話 三〇六二 / 二五九三 番

陸軍諸官衙御用達
田中商會支店
富士町三丁目十番地
電話 長三四五八番
本店 旅順乃木町三丁目
支店 奉天平安通十一番地

合資會社
廣本洋行

四平街之部

警察署長
聖德會長
憲兵隊長
電燈株式會社專務取締役
輸入組合理事
保線區長
驛長
地方事務所長
在鄉軍人分會長
取引所信託株式會社專務取締役
國際運輸支店長
(いろは順)
飯島慶藏 池田耕 林清 富田登二 桂馨三 加茂增平 田中幸英 山岸守永 古鹽八十八 佐藤龜記 木藤格之 三ケ島墓貢

地方委員
(いろは順)
伊藤新八 岩永唯一 林寛一 田中佐重郎 竹村石次郎 添田澤三 上野一郎 吳善培 木藤品九郎

(いろは順)
小學校長 井上章
公學校長 稲川淺次郎
普通學校長 島崎久座

四洮鐵路管理局

圍碁教授
西岡國三郎

奉天省昌圖縣
八面城居留民會

四平街
滿鐵俱樂部食堂
電 公 社内 三三一 一五四番

奉天省昌圖縣八面城(四洮線路沿線)
特產物商 萬和成
宮地昌
電二七番

玩古堂
岩井啓臣
電一二四番

鄭家屯
御料理 看月
岩井政
電八番

通遼
御料理 看月
岩井政

新古世帯道具
既製和洋服
履物いろく
秋山商店
電一四四番

植半
構内食堂 電二〇番
旅館部 電三〇番
そば店 電一五五番
食料品部 電五三二番

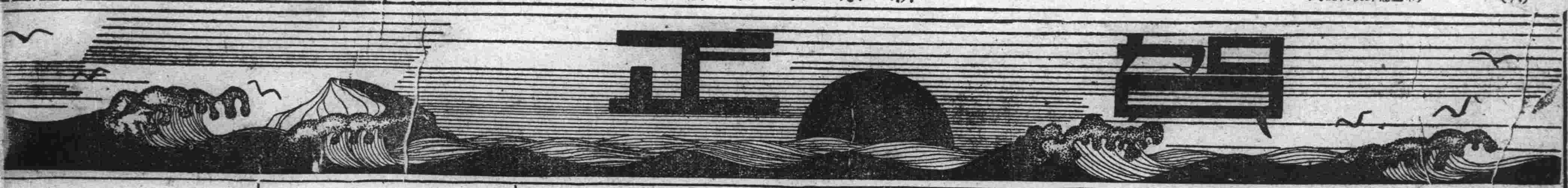
石炭
松昌公司 電八番
信和洋行 電一八六八番

雑種雑貨
ゴム製品類
合資會社
太連洋行支店
電一四九番

陸軍
滿鐵
關東廳
御指定
小松屋旅館
電一一六番

チエリー軒
理髪師 德永喜曾一

吳服悉染
和洋雑貨
化粧品
小間物
新考社
本店、開原大街 電二五〇番
支店四平街仁壽街 電五〇五番
高級御履物 新考社履物



吉野町一丁目
食料雑貨
柳田商店
電話三〇九七番

日本橋通七〇
竹山商會支店
戸田亥之助
長電話一二四九六番

教育玩具
日本橋通り
日の出
電話二七二二番

圖書雑誌文房具
中央通り
大阪屋號書店
電話二三二一番
振替大連三八〇三番

貴金屬商
森洋行支店
中央通り
電話二八七三番

曙町二丁目一番地
豐商會
電話二七七二番

食料雑貨
丸德商店
吉野町二丁目
電話三二三三番

風柳暖房商會
風柳武次郎

和洋樂器
吉野屋樂器店
電話三〇六八番

長崎屋洗布所
電話三二八七番

貴金屬寶石
寶石堂
電話三三一八番

眼鏡貴金屬商
原金細工店
電話三二九二番

運送業
石山商會
電話二〇五一番

特産商
福田商店

各種雑貨品問屋
富屋洋行
富士町二丁目

食料雑貨
吉野町一丁目
石堂商店
電話二七三五番

日本橋通七一
海陸物産　和洋酒類　食糧罐詰　燐寸雑貨　卸問屋
福田商店
電話二九八〇番
本店 安東縣　支店 奉天、新[illegible]

新京驛構內賣店
久保田店

すみ安商店
麻生磯平
電話三〇六六番

山豐製作店
電話二二七九番
公學校正門前

寫眞機材料商
中央通り
木村洋行支店
電話三三四六番

高等製靴
東一條通
金城靴店
電話二九五二番

青井文藻堂
青井正一

室内装飾品　洋家具商
日本橋通り
横山洋行支店
電話三八三一番

精米商
唯一公司
電話三三七五番

(加)
にしきや京染店
消防隊横入
電話二六二〇番

吉野町
大和藥房
山本八十四郎

化粧品雑貨
かみや商店
神谷常藏
電話二六七五番

一二三館
池崎友太郎
帝國領事館前

和洋菓子
江戸屋
電話二〇七〇番

博多屋質店
祝町二丁目七番地

吉野町二丁目
朝日喫茶店
電話二五九一番

菊屋樂器店
三笠町

食料雑貨
三浦洋行
電話二五六七

書籍文具
森野商店
電話二一五一番

食料雑貨
丸平洋行
電話二六四〇番

綿商
池田綿店
電話三〇八八番

和洋食料
調辦所
電話 二〇七三 三一五三 番

藤崎工作所
藤崎熊

大正堂時計店
東二條通り

時計眼鏡
金華堂
電話二六四五番

新京製菓公司
吉野町二丁目
電話二七三六番

谷口商會
谷口清

吉野町一丁目
村田逍遙園
村田清市

大信組
赤羽一二

宮崎組出張所
田中卓二

東華洋行
伊藤正夫

新京
金融組合

諧謔小説

細君讀本（上）

迫千軸作　阿蘇千々春畫

「今晩は早いよ、晩飯？ あゝ家へ帰つて來てからたべるよ」

橋本君は妻君の男子にさういふと、煙草の煙を後に會社て出た行つた

――どうだか知れたもんぢやない、いつもあれなんだから

でもさう思ひながら、つい信用して、九時過ぎまでも食事もしないで待つてゐた、今晩もおそいなつてことが分ると、自分がたまらなくお人好しに思へて來るのだつた

――今晩も醉つて來るんだらう

だから帰つて來たら、今日こそ怒つてやらうと思つて待ちかまへてゐると、一時間近に、ガラ／＼と格子が開いた

「おーい今帰つた」

と、にゆうと手だけ先へ出すと、手の先に何か土産がぶらさがつてゐる、いつもの手！

「そんなもの、いらないわよ」

のんきな細君が角を生やすと、やつぱり橋本君姿を現さないで

「おや！ 醉つぱらつて間違へたかいな、俺んちには怒るおくさんは居なかつた筈だけど……」

そんな事をとぼけて言ひ乍ら、ふら／＼歩き出す、と細君もつい笑ひ出してしまふのだつた

こんな時、お土産がないと、あわたゞしく玄關へ飛び込んで來て

「おいツ、苦しい、水！ 水！」

ときなる、さうなると怒るどころか心配になつて、コツプに水をくんで持つて來て、少しオロ／＼聲――

「どう―したの？ あなた」

なんて、靴をぬぐのを手傳ふやうになつてしまふのである

しかし、水！ 水！ の手も二度三度となると、又かと思ふやうになつて、知らん顔をきめてゐると、本當に玄關へゲエ／＼小間物店をひろげてしまつた

戸締りをさして、すましてゐると、ドンドンと叩き出すのだつた

「電報！ 電報！」

と怒鳴つてみたり、友達の聲色をつかつて

「橋本君、寢たかい？ 橋本君！」なんて大きな聲を出すので、細君近所の手前開けないわけに行かなくなつてしまふのだつた

それで、遊びすぎたり、一晩帰らなかつたりすると

「これ買つて來たよ」

と、細君が日頃欲しがつてゐたものを買つて來る、そんな具合に二重にも三重にも文句が言へないようにしてしまふのだつた

「あたしね、帶が一つ欲しいんだけど……」

「一晩あけてもいゝから買つてくれつて言ふのかい」

「あら、そんな譯ぢやないのよ、ぢや買つて下さらなくてもいゝわ」

かうなると、どつちにしても橋本君の勝である

ある日は、早く帰るよ、が二日も帰つて來ない時があつた、今度こそ怒つてやらうと細君が待つてゐると、三時頃になつて、會社の給仕が手紙を持つて使に來た

――至急用事があるから、この使ひと圓タクですぐ來てくれ

と書いてある、何事かと思つて來て行つてみると、つうくした顔付で

「やあ、しばらく、どうだい」

馬鹿々々しいやら、おかしいやらで、怒ることも出來ず

「急用つてそれだけ」

「いや、今日帝劇の切符を二枚貰つたんだけど、これから行かないかい」

「……」

「いやだつて言ふのかい？ ひねくれたおばあさんに見えるよ、おくさん」

かうなると、細君たるものもう從はざるを得なくなる

だが、橋本君、いつもこの調子でゐるかといふと大違ひ怒り出すと手がつけられないのだつた、ともかく細君にはちつとも怒らさずに、自分だけはカン／＼になつて怒るのだつた

しかしそんな時は必ず妻君の失敗をちやんと握つて怒るのだから細君も手におえない

「相すみません」

と細君があやまるのだつた

なか／＼隅におけぬ亭主である

だが橋本君はそんなエゴイストではなかつた

或る日、女學校時代の細君の友達が訪ねて來た

「歌舞伎座へ行かない」

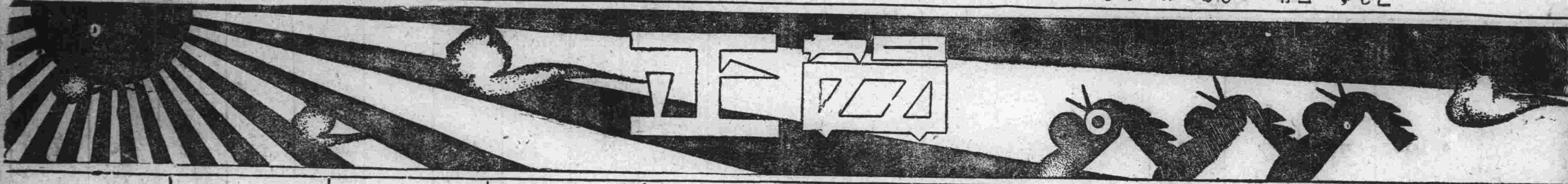
と、彼女は誘ふた

「ハズと行くつもりだつたんだけど、今日になつて、急に用事が出來ちやつたので、一枚無駄にするのも惜しいから誘ひに來たのよ。」

「でも、あたし留守に出かけたことないのよ。」

と橋本の妻君が正直に言ふと、

「おとなしいのね、あたしなんてお終だわ。男なんて外で勝手なことをしてゐるんだから、女だつていゝ譯じやない？」



吉長吉敦鐵路管理局 滿鐵代表 酒井清兵衛

新京 地方事務所長 荒木章

新京 郵便局長 市川薰

吉長吉敦鐵路管理局 總務處長 味岡謙

吉長吉敦鐵路管理局 會計處長 渡邊正太郎

吉長吉敦鐵路管理局 運輸處長 片瀬晋

吉長吉敦鐵路管理局 工務處長 村山末男

吉長吉敦鐵路管理局 用度課長 福原昌龍

吉長吉敦鐵路管理局 加來惟利

大阪商松株式會社 大連支店長代理 村井弘光 新京駐在

新京地方事務所 稻葉賢一 荻原準 渡部奉綱 增田增太郎 小林廣次

新京 郵便局員一同

新京富士町二丁目 長澤紀代司 電話三三五六番

日本赤十字社支部 星熊太郎

大馬路四九 松田彌三郎

千葉商店 千葉修一

弘津安五郎 祝町

株式會社 大信洋行支店 村上照

新京 商通組合支局

共保生命保險株式會社 新京支部長 廣部左近

早川齒科醫院 早川武夫

片山正一 大和通十五

永野吉右衛門 御大典記念館內

利光智玉 長春祝町二丁目 眞言宗金剛寺

横田一榮 永樂町三丁目 日本山妙海寺

林洋行 林金次

雙發洋行 印刷部 電三六三四番 電氣部 電三八二三番

大每舍 田中勘助 新京中央通 電話二〇一七番

朝日舍 栃尾幾太 東

南滿洲鐵道株式會社

總裁 伯爵 林博太郎
副總裁 八田嘉明
理事 伍堂卓雄
同 十河信二
同 村上義一
同 山西恒郎
同 竹中政一
同 河本大作
同 大淵三樹
同 山崎元幹
顧問 斯波忠三郎
總務部 部長課長審査役監査役一同
計畫部 部長課長審査役一同
經理部 部長課長一同
鐵道部 部長課長一同
地方部 部長課長一同
商業部 部長課長一同

（いろは順）

岩男其二郎
入江正太郎
池田嘉一郎
石井金三郎
石橋米一
小川順之助
小住善藏
小倉鐸二
大坪正
岡野勇
大場春吉
賀來之憲
高田友吉
高見三吉
高塚源一
高橋芳藏
田村羊三
築島信司
野木定吉
增田義男
桝田憲道
古泉光男

近藤誠久
江崎重吉
寺澤晉叡
相生常三郎
相生由太郎
秋山卯八
坂本治一郎
三澤重義
三浦貞三
宮井隆次
鹿野千代槌
志村德造
篠原豐三郎
森川莊吉
森捨三
守中清
森正二
關根四男吉
杉浦熊男
末網胖
小林又七支店 太田信三
大倉商事大連出張所 藤本實

滿鐵市會議員有志
一宮章
直塚芳夫
松浦開地良
菅原恒男

大連市會議員十日會
小野實雄
恩田明
笠原博
上原進
龜澤福禎

滿洲モーータース
吉野實
葛和善雄

大連市役所課長一同

南滿洲電氣株式會社

國際運輸株式會社

南滿洲瓦斯株式會社

福昌華工株式會社

滿洲土木建築協會

福昌公司株式會社

大連火災海上保險株式會社 社長 村井啓次郎

合資會社 大連々鑛商店

滿洲旅館協會 紀伊町八五

株式會社 乾卯商店大連支店

大連自動車株式會社 社長 田邊敏行

大連市連鎖街 丁子屋洋服店 秦助市

洋酒食料直輸入商 三星洋行 喫茶ドミノ 大連市榮町

山葉洋行 大連市信濃町

大連浪速町 船塚

本店 營口新市街 支店 大連市浪速町 營口近江洋行

大連市浪速町 貴金屬時計 天正堂 寺師正平

大連市紀伊町 合資會社 白鹿商店

連合

御料理 扇芳亭

逢廓 三田尻

逢廓 快樂

逢廓 大幸

逢坂町遊廓組合

酒の惡戯

佃平四郎作　大津逸二畫

小塚原の仕置場に、仲秋の月が照つてゐた。夜の九つ、獄門台に首桶が三つ並んで、蟲の音が柱の根の雜草にすだいてゐた。其蟲　音がぴたと止んだ。あとの靜寂は場所柄淋しいのを通り越して、寒の水のやうに冷く物凄かつた。

虫が歌を引込めたのは、露を踏みしだいて人影が近づいて來るからであつた。人影は侍だつた。足許の確かならぬところを見ると、何處で飲んだか、十二分に酩酊してゐた。刑場た怪しの侍、月のみ徒らに照つて、獄門番の非人小屋では首守役の團子鼻から鼻汁提灯が出たりひつこんだり――他愛のない夢に夜は深々と更けてゆくばかり。

やがてのこと、醉漢の侍、口の中で謡曲でもうたひ乍ら一高一低千鳥足、獄門台の前へ差し掛つた。立停まつて仰ぐ横顏、月が眞上に浮んでゐるから判然人相がわかる。

醉つてもゐるが、この人物なら素面でも相當に厄介な先生、ほかでもない、常時江戸三劍客の一人者、神田お玉が池で北辰一刀流を誇る千葉周作門下四天王の隨一、平手造酒其人だから仕末がわるい。お玉が池四天王といふのは第一が海保半平、第二に庄司辨吉、第三に井上八郎、それに今宵此の場へ迷ひ出たる人間三分に酒樽七分の豪放不羈、磊落無二の劍狂平手造酒だ。名からして造酒といふ位ゐだから、この人お酒がなくては生命がつゞかなかつたものとみえる。今夜も梯子のついでに何處といふ目的もなく出て來たものらしいが、獄門場へ膽試し、膽力を振ゑに深夜を選んで立ち廻つたのかも知れない。其頃、武士は勿論、氣の荒い町家の若い者のあひだにさへこんなことがよく行はれたものである。不氣味といふことを知らない平手造酒、白痴か、好奇か、醉興か、これも酒のさせる業であらう、突如腕を伸ばしてふらふらと台へ近寄ると、桶の一つを取つて見た。

するとあると思つた首がない。造酒、ほかんとして獨語。

「おやおや、折角何んな人相のやつが法度を犯すか、その面が見てえと思つたのにこれでは仕樣がない。が、諦めるのは些と業腹だな。どれ見張番は何處に――?」

下らないことに力瘤を入れたものだが、見たいと思つたものが其處らにないとなると一層見たくて矢も楯も耐らなくなるのが人情。平手造酒、醉眼を見はつて月明りにすかすと、すこし離れた草叢のなかに掘建小屋が立つて、板戸の隙から灯りがちらちら覗いてゐる。これへ見當をつけた造酒、酒と二人伴れでやつて來た。

黒羽二重の衣類に黒七子の羽織、袴をはいて兩刀を前半に手挾んだ立派やかなる立姿すこし不粋だが脅しの利くことこの上ない。建附の惡い小屋の戸をがたぴし開けて顏を入れたから、驚いたのが番の老爺だ。

「お早うございます。」

夜が明けたと思つてゐる。

「あゝお早う。」造酒は相變らず好い氣なもの「唯今あれなる獄門台の桶を脫けてみたところ首がないぞ。これ、何で曝して置かんか。有体に申上げろ。」

有体に申上げろと來た。途端に酒の香がぷうんと老爺の鼻をつく。見ない顏だが、新參のお役でもあらうかと恐心顏を下げて恐入つてゐた獄門番の老爺、こいつあ相手が宜くねえと思つた。だから今の因緣のない岩永張りにも、直ぐさま下手に斷り出たものだ。

「えゝ、殿樣へ申上ます。それはその、御法でございまして、獄門の首へ桶をかぶせただけで私どもが此處で見張りをして居りましたのでは、何うか致しますと、刑死人の親類緣者等のために、お上よりお預りの大切な首を盜まれてしまふことがあります。これは何と申しましても手前どもの落度に相成ります故、夜中は桶だけ出して置きまして、この中に首ありと見せかけ、その實、首は常小屋内に仕舞ひおきまするが定となつて居ります。お咎めを蒙りまして相濟みませんが、右樣の仔細でござりますれば、何卒お眼こぼしの程、ひとへに願ひ上げまする。」

謝罪るが勝ちと思つたから老爺矢鱈に詫言を連ねたが、造酒、へえ、左樣でけすかと引つ込みはしない。

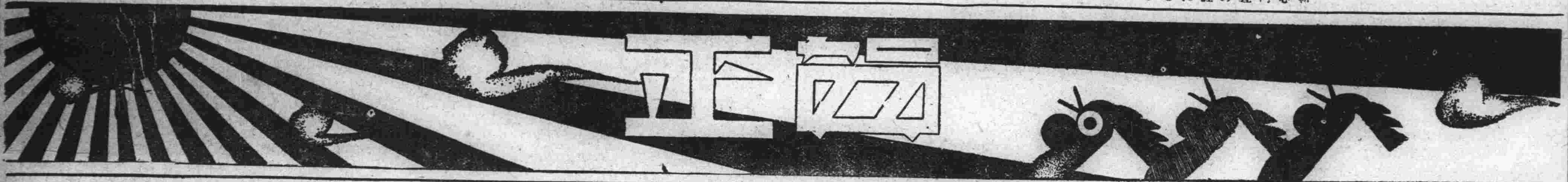
「何故首を獄門台へ曝しおかんのだ。うゝむ、有體に申上げろ。何故首を――。」

よつぱらひのしつこいのは今も昔も同じことゝみえる。戸へ寄掛つて首だけ入れて、しきりに一つ事を繰返してゐる。

「これ、身共はな、すこうし醉つてゐるぞ。」

「成程、宜い御機嫌で、まことにはや、何とも御馳走さま。」

「默れ、默れ。誰がその方に酒をやると申した。いや何故あつて首を――うゝむ、水を持て、水を。」



乾物 野菜 鮮魚 商 スピード屋 彌生町二丁目一 三井護刀 電話三八三二番
支店 スピード屋 西五馬路令城樓隣 前田玉治

京 新京百貨店 日本橋詰

食道樂 青柳 祝町中央公館隣 電話三〇九〇番

高級 美術 寶飾 商 金華號 本店 大連市山縣通 日本橋通り

ライオン號 百貨店 赤木洋行

新京寫眞協會(イロハ順)
乾寫眞館 電三〇二五番
池田寫眞所
林田寫眞館 電三一二二番
大陸寫眞所 電三四三四番
中川寫眞館
臼井寫眞館 電三四五〇番
藤坂寫眞館 電三一一三番
光園社寫眞場

東一條通 池田自轉車店 電話三四二五番

おでん 呑兵衛 野間

おでん てんぷら 江戸吉 日本橋通り

お壽司 おでん 江戸家 三笠町一丁目

おでん 支那料理 かしまや 祝町太子堂前

おでん かん酒 みのや 富士町二丁目

おでん 宵待 三笠町三丁目

おでん 夜明 三笠町三丁目五

四平街之部

奉天省梨樹縣公署
縣長 曲廉本
警務局長 李慶善
財務局長 李東圃
實業局長 陳述文
教育局長 劉錫鋼
電話局長 楊作棟
總務科長 紀振元
參事官 澤井鐵馬
屬官 宇慶勉
同 野澤正雄
警務司指道官 西川信正
同 松井政太郎

日蓮宗安國寺 中村正之

雲仙堂表具店 電話二四四番

范家屯 屠獸場 電話一二七番

御料理仕出し やよい食堂 范家屯 電話七一番

范家屯
池部才次
塙孝一
西澤嘉助
渡邊政雄
川名萬次郎
狩野茂
竹田繁藏
那須純一郎
小松六郎
宮原常好

吉林之部

吉林總領事館横 北海公司 電話一二五番

吉林大馬路 共信公司支店 福留龜次郎 電話六八番

吉林木材會社 平尾芳次郎 電話六二六番

國際運輸株式會社 吉林支店 支店長 宮本登

國際運輸株式會社 吉林車站街 吉林支店

清酒販賣元 愛媛洋行 吉林商埠地大馬路

吉林商埠地 木材 石材 木炭 商 盛倉號 電話七〇〇番 電信(モ)又ハ(モリ)

吉林驛 構內食堂

吉林 松金食堂

吉林 總領事代理 森岡正平

吉林 滿鐵事務所

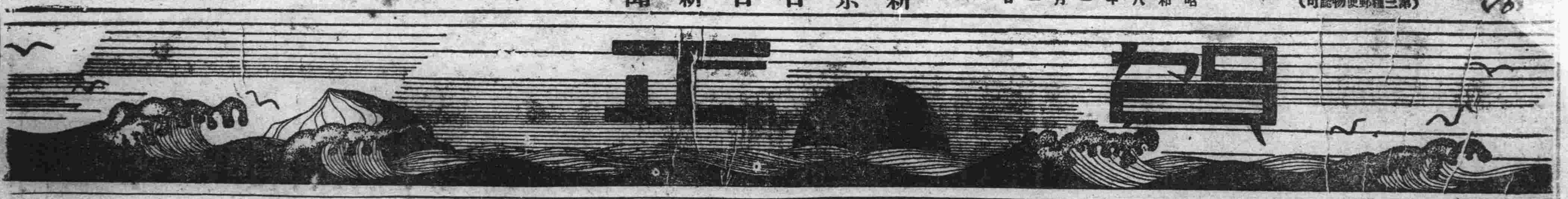
泰山行 山下峻

滿鮮坑木會社 吉林支店 前田利則

吉林 木材興業株式會社 電話七〇二番

名古屋館 電話二〇〇番

料理 吉林 …務所 電話



和洋紙
諸印刷
北原紙店
北原廣
電話二四〇一番

時計貴金屬寶石
中谷時計店
假營業所
日本通通り一九
電話三八五四番

建築材料
西脇洋行
三笠町二丁目
電話二二四〇番

新京藥業組合

自働車修繕
新京サービス
富士町

新京洋服商組合
(いろは順)
石田洋服店 電三七二六番
井上洋服店 電三七六四番
エスヤ洋服店 電二六一九番
小川洋服店 電三三四〇番
横田洋服店 電二二四八番
松田洋服店 電二二四六番
佐藤洋服店 電二九七六番
宮地洋服店 電二九九五番

新京綿糸布商組合
伊藤忠商事株式會社
日本綿花株式會社
東洋綿花株式會社
不破洋行
正信洋行

新京
材木商組合

大陸窯業
株式會社支店
日本橋通
電話二一三八番

滿鐵販賣課事務所

高島屋質店
上田キマ
祝町二丁目
電話三三八五番

新京美粧倶樂部
新京百貨店二階八號

合資會社
[illegible]倉洋行
荒木伸之

加藤捨次郎
祝町二丁目

建築材料
船越洋行
電話二六四一番

食料雜貨
今田商店
電三二三三番 三九三三番

大有通公司
電三〇一五番

和洋雜貨
大葉商店
電二六七四番

新京
下宿業組合一同

新京
市場株式會社
同賣店組合

哈爾賓

國際運輸會社支店
北滿ホテル
名古屋館
ナショナルホテル
箱崎文彌
剛崎虎雄
宗像金吾
高橋貫一
山口順平
長濱政一郎
山崎重次
高田滿藏
野原皆一
新開卓爾
山田小一

酉年の歷史(上)

神武から大正十年迄

時代變遷に伴ふ酉年の世相

皇紀二千五百九十三年癸酉の元旦を迎へて、そもそも建國以來この酉年に、どんな事があつたかを調べて見るのは新春にふさはしい一興であらねばならぬ

そこで歷史を引つぱり出して、おもむろに目を落すと、先づ第一に目につくものは、紀元元年辛酉の元旦に、諸國を平定したまふた神武大帝が大和橿原の宮に御即位になつてゐることだ。建國の基礎が酉年の元旦であつたといふことは、まことに緣起のいゝ話で、皇祖の鴻業を偲び參らせては、餘計にめでたさを覺えずには居られない。降つて、第十代崇神天皇の酉年には河內國に依羅池を作り、農業を勸められてをる。日本に於ける池溝の始めだがこれまた「開け行く國」を意味して緣起がよいではないか。然し、さうさう緣起ばかりもかついでは居られないから、以下順を追ふて主なる出來事を拾ふて見よう

第十二代景行天皇の紀元七百五十七年には、日本武尊が熊襲征伐をして居られるし、更に七百八十一年の酉年には武內宿彌を棟梁臣に任じ、大臣大連の執政の始めが、日本を一層明るくした

それが十三代成務天皇の九三七年には、既に皇威外國に及んで、百濟が入貢してゐる

紀元九百七十三年、時の帝仁德天皇が、都を難波の高津宮にお遷しになつたのは餘りに有名だ。同じ帝世の千四十五年の酉年、支那から菊の種を獻上した記錄なきは、皇室の御紋章と思ひ併せて、興味ある事である

第二十二代清寧天皇の一一四一年には日本に最初の新嘗祭といふものが擧行された。農事を以て國の土台とする賢き思召に外ならない、今更いふまでもなく、日本文化の文物は、多く支那朝鮮から齎したものであるが、二十四代仁賢帝の一一五三年には、早くも高麗から革工が渡來して、熟皮、染皮などの術を傳へてゐる。二十九代欽明天皇の一二一三年癸酉の年に、始めて佛像が作られたなども記憶すべきことである。この前後は文化文物の輸入の洪水で、三十代敏達天皇の一二三七年(丁酉)には百濟法華律師、禪師、比丘尼、呪師、寺工、佛工等が渡來し、三十三代推古天皇の一二六一年には、同じ百濟から天文、地理、暦本などを獻上してゐる

第三十六代孝德天皇の一三〇九年には元旦朝賀の始めをつくり、これが五十九代宇多天皇の寬平元年に四方拜と名が變つて來た。四十代天武天皇の一三四五年に草薙劍を熱田神社に奉安されたのは誰しも知るところで、それからずつと降つて、六十代醍醐天皇の延喜辛酉の元年、菅原道眞が太宰府に左遷されたことも歷史に有名だ。彼の武勇ならびなき源賴政が鵺を射止めて御褒美に花のやうな官女を頂戴に及んだのは、七十六代近衞帝の仁平三年であつた

鳥も通はぬ八丈が島へ——の歌で知られた俊寬が島流しにあふたのは八十代高倉帝の治承元年、この頃は平家の天下で、さてもその一族が羽振りを利かせてゐた時代であるが、八十二代後鳥羽天皇の頃となつては、もう源氏が代つて天下の權を把持してゐた。即ち一八七三年の酉年には、歷史に文武の花と謳はれる衣川の戰ひもあり、賴朝は關八州を靡かせて京に入つた

七草の粥を

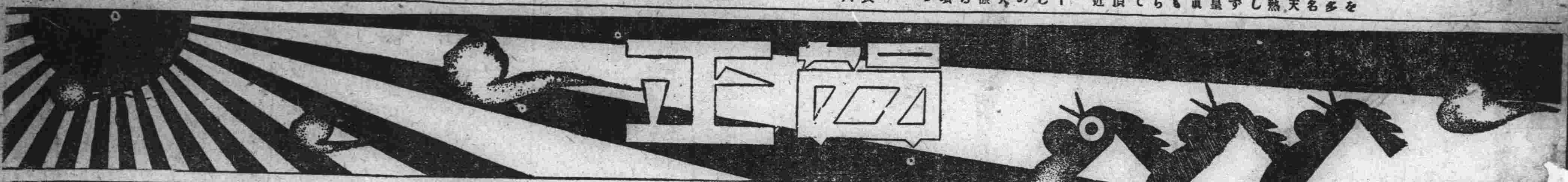
正月に食ふわけ

正月の七日に七草粥を食べると萬病を治し、一年中病氣を襲はれないといふ緣起が今でも相當擴がれて、何處の家庭でも此の傳統を守つてゐる樣です

ところでこの七草を食べると何故病氣にかからないのか、また病氣を治すのかといふことには余り深い考へをもつてゐる人が少いやうですが、ここにはよくしたもので七草の一つ一つがそれもこれも藥療としての効果をもつてゐるからで、さてこそさうなづける譯です

先づせりは酒毒を消し黃疸にきく外胃腸の吸收を助けたりリウマチスにききめがあるといはれて居ります。なづなは食慾を增し止瀉藥としても効果があり、赤痢、風邪、眼病にも効くといはれます。鐵分が多いので淨血作用もするとのことです。ごぎようは痰咳喘息にきいて解熱にも用ひられます。はこべは利尿、淨血緩下劑として定評のあるものです。ほとけのざは胃腸の消化を助け淨化作用があるといはれますが、この草の燒灰を鹽をまぜて食べると齒が丈夫になると云はれます。すずなは普通に云ふ蕪菁のことで咳ごめ、下痢ごめ、利尿などに効くさうです

すずしろは大根のことで、根は消化、咳ごめ、利尿に役立つ外解毒劑としても効き、葉は姙婦の入浴に際して藥湯の材料となり、種子は健胃、袪痰の藥として萊菔子と稱されて珍重がられてゐる(完)



ライオン
カフエー
三笠町二丁目
電話二三七九番

カフエー
みつわ
三笠町三丁目
電話二二八〇番

レストラン
モスコー
東二條通一六
電話三七三三番

喫茶店
名代の露西亞菓子
アツイシヤン
(新京日本橋通)

カフエー
赤玉
東一條通

カフエー日本橋
日本橋通り

日本橋通り
壽司竹食堂
電話二七二四番

東一條通
西洋料理
精養軒
電話二三〇五番

東京生そば
天金
電話二五四五番

三笠町四丁目
會席御料理
大辰
電話二九八八番

新京料理店組合一同

新京商埠地
料理店組合一同

新京旅館組合

西五馬路
會席御料理
三福
電話三八七九番

吉野町一丁目
モモ太郎食堂
電話三三九一番

生そば
丸善
電話三一二四番

奴すし
電話三三八〇番
同 食堂
電話二四三六番

日本橋通り
市場食
電話三二

生そば
丸
電話三二四

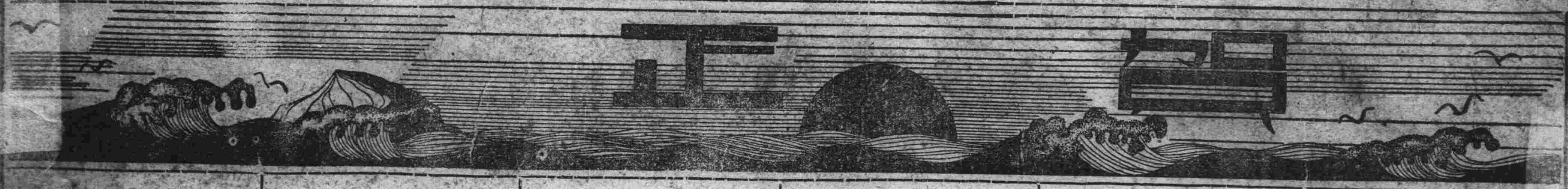
高等製靴
田中靴
電話二八

カフエー
ミカ
電話

カフエー・ポプ

吉野町
小林履

おすし
お辨當
吉野町一
三



平本洋行
岡田小太郎

廣春洋行
吉田廣盛

天野商店
天野恒太郎

日隆號精米所
電話二一七七番

清酒專門
森川酒店支店
曙町二丁目
電話三八〇八番

村岡呉服店
吉野町二丁目
電話二一二四番

熊本屋洗布所

阿曾時計店
電話三五七四番

和洋菓子
日新堂
電話三〇二二番

食料雑貨
さかもと商店
電話二九四一番

食料雑貨
森川商店
電話三〇七五番

蝶屋洗布所

西村洋
西村清兵衛

有田焼專門の店
金龍洋行
吉野町二丁目
電二七五五番

美術印章彫刻
文古堂
吉野町一丁目
電話三一四五番

諸印刷
濱木活版所
電話二二四八番

鵜殿疊店
鵜殿新十郎
電話三四四〇番

花環造花
尚華堂
祝町二丁目
電話三四五三番

省堂製本所
電話三三三四番

須田商店
東三條通り

中央通り
ヤマキ呉服店
電話三八〇五番

三笠町二丁目
高等製靴
竹屋靴店
電話二〇五二番

日本醸造協會主催品評會ニ於テ優等賞受領
丸三醤油
龜甲萬醤油
其他食料品一般
滿洲總發賣元
丸三洋行
東三條通五八

小松製材所
松兼松

三宅提
電話二
不用品賣買店は
祝町二丁目

柔道教師　岡本捨吉
整骨
線病
專門
今辨慶療院
公學校前

新京吉野町二丁目
牛ゑり
帯メ類
縫糸類
其他
專門
㋕商店

東二條通
岡本鐵工廠
電話三一九二番

三笠町一ノ二
野中産婦院
電話二三〇一番

兒玉疊商店
兒玉繁太郎
電話二九三十番

鵜殿兄弟商會
鵜殿長壽惠

吉野町二丁目
豐泰號鞄店
電話二九三七番

綿商
中村綿店
電話二六六一番

山本羽根蒲團店

日本橋條通り
みしま

ミツワ
新京

吉野町二丁目
とらや屋
電話

吉野町二丁目
呉服商
ちゝぶ
電話一九

大滿洲國新京第一聲の光輝洋々たる新陽を迎へ謹而お喜び申上ま
富士町
淺沼理髪

食料雑貨
梶原洋行
電話二二五五番

和洋雑貨
現代號
電話二一八八番

吉野町二丁目
世帯道具
酒井商店
電話二四六四番

洋貿易精米所
電話三

凄艶紅涙双（一七一）

（上編）　鈴木彦次郎作　飛鳥久緒畫

佐渡は、ぢろり、一座を見廻しながら、

「各々方も、既に御承知の事と存ずるが、今日は、特に愼重なる態度で、充分、所信を述べて貰ひたい」

先づ、彼は一同に對して決意をうながし、更に、一ゆり、膝を進めて、本論に入り、雄長を誇り、東北皆敵論に慷慨し、奥羽列藩同盟の結成を喜び、この際、南部藩にも、その利害を越して、友藩と事を共にせざれば、天下の嘲笑を免れまい、と、だんじた。

すると、三戸式部はすぐさま、その尾ひれについて即時歸國說を述べ始めた。

折しも、廊下を踏む足音も高らかに、阿部島之助は、後れ走せに姿を現はし、雄馬側に座るや、氣色ばんで式

部の所説に耳を傾けるを、

「――事情、かく相成つたからにはもはや、我々は、安閑として京に滯留しゐる必要はない。即刻歸藩仕り、藩を擧げて、斷然同盟軍に加入すべきでムらう會津、仙臺に對する友誼としてもさうなくてはならぬと存ずるが、御異説もムるかな」

式部は、國老の顏色を、ちらと窺ひながら、論じ終つた。

佐渡は、無言で、大きくうなづいた。

途端、さつと、顔をもたげた女鹿鐵之助、咽喉にからまる痰を振きり、鋭い詰問！

「式部殿はしきりに、即刻歸藩を主張されるが如何なる點に據を置かれての御說でムらう？我々には、單に、會津仙臺に對する友誼を重んじての御意見のやうに存ぜられるが――」

「左樣、友藩の義理を缺く譯にはゆかぬ、それとも事は無用だと云はれるのか」

「や、これは、近頃、面白い說ぢや。ハツハヽ……」

「なに、お手前は、武士として義を重んじなくともいゝと云はれるのか！」

式部は、むつとして、問ひ返した。鐵之助は、即座に切り返して、尚は、論を進めやうとした刹那、折惡しく、込み上げた咳に、言葉も出ぬ。だが、雄馬は、すぐに受け繼いだ。

「友誼もさりながら手前には奥羽の列藩、果して、最後まで、かたく同盟を結び得るや否や？――前途、甚だ、不安に存ぜられまするが……」

「いや、それは、御懸念に及ぶまい。雄藩仙臺庄內が、先頭にたつた今日二、三態度が不明な藩もあるが、殆ど問題ではムらぬよ」

「な、何を云はれる。おぬしらは奥羽の天地のみを覗いてゐるから仙台が恐ろしいのだ、庄內が天下の形勢に見えるのだ――あんな兩藩、何のたよりになりまするか！津輕を見られい。佐竹の內情をよく確めるがいゝ、結成早々動搖をつゞけてゐる奥羽同盟の如きを、過信して藩の態度を決めるなら悔を千載に殘しますぞ！」

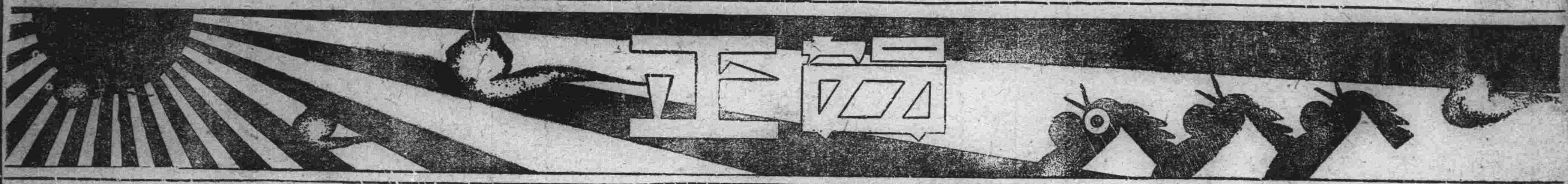
阿部島之助、白皙の顏に激怒の色をたゝへ、憤然として言放つた

「阿部！過言ぢやぞ、控へろッ！」

佐渡は、威丈高に、一喝した。

「いや、國老のお言葉だが、今日は、所信を吐露して、各方の反省をうながす迄はだんじて、だまらぬ。――抑々南部藩としては……」

阿部は、少しも屈せず、更に猶論しかけるを、雄馬は、からく制し、代つて、口を切つた。



南滿洲瓦斯株式會社新京支店

株式會社 鹿島組出張所
大和通り六十五番地
電話長二八〇四番

中央通 菊地工務店
電話三三三一番

榊谷組出張所
中央通り四一番地
主任 岡田實
電話三二〇七番

吉川組出張所
東一條通三四
電話二三二一番

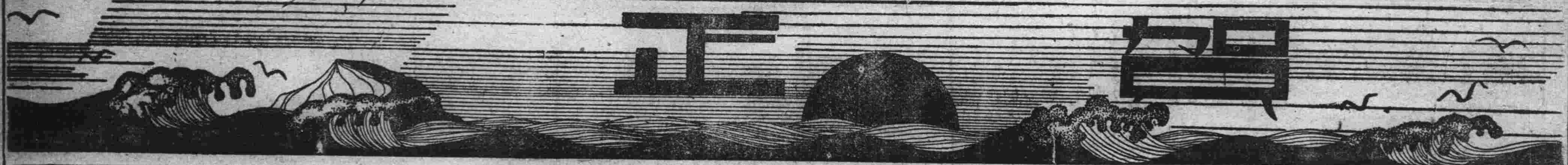
寶洋行 宮本信七

大島洋行 大島己之助

土木建築請負業
池田 市川 工務所 出張所
新京曙町二丁目
電話三八四一番

小西建築事務所
小西代利雄
室町三丁目一番地
電話三一二三番

土木建築請負業
日志洋行出張所
中山政助
朝日通り五五番地



新京
輸入組合

和洋菓子
峯長春堂
同　市場支店
吉野町二丁目
電話三二九一

和洋雜貨
金泰洋行

隆泰公司
島名福十郎

德喜林業公司
彼末德雄

仁和洋行
瀨下金

三友社主
四戸友太郎

阿川組水道部
稻木耕多

石崎洋行主
石崎廣治郎

商工會議所
大垣鶴藏

居留民會長
田中善平

關東廳觀測所
支所長
宍戸新次郎

居留民會
石黑直助

地方委員議長
勘崎仙英

地方委員
平山繁光

地方委員
宮崎竹次郎

地方委員
孫化南

上田賢象

新京神社
井上香木

清水齒科醫院
清水信義
中央通り

峯下商會
峰下一郎

新京ヤマトホテル
支配人
千葉千代吉

新京木材工作公司
藤岡織太郎
永樂町三丁目三
電話三〇七〇番

辯護士
法學士
大原萬千百

田崎法律事務所
田崎治久

泰利號主
則生德之輔

新京興信公所
所長
清水末一

井上示現軒
井上惣三郎

裕泰號
末松正實

國際運輸株式會社
支店長
蔘沼泰一

東洋棉花株式會社
安間安五郎

加藤洋行
寺內清次

濟陽湊
關東軍司令部酒保
中央通三六番地
電話四四五四
四四五五番

日支紛爭決議案に 支那側修正案提出
ヤケ氣味に強硬なる態度 修正點は四ケ所

【ジユネーブ廿九日發國通】聯盟支那代表部は二十七日聯盟事務局に過般十九ケ國委員會が可決した日支紛爭處理決議案に對する支那側の修正案を提出した、確聞するにその內容は左の四項を提議せるものである

一、滿洲國の否認
二、日本が聯盟規約その他の國際條約を侵犯せりとの明確なる聲明
三、リツトン報告書の採擇
四、聯盟規約十五條第四項の規定する報告書作成のための猶豫期間即時決定

右支那側の修正提議は必ずしもこれによつて十九ケ國委員會の召集期日を早める必要をもたらす如き性質のものではないが支那側の態度はあくまで强硬であつて日支紛爭の問題解決に必要な和協的雰圍氣を醸し出すまで何等の進捗をも齎してゐない聽左と見られ、日支問題の前途は聯盟の推移如何では寧ろ悲觀されてゐる

日露不可侵條約の提議に關し 陸軍當局の見解

【東京卅日發國通】日露不可侵條約締結問題は二十八日駐日大使トロヤノフスキー氏が內田外相を訪ひ再提議を豫告したことにより明春早々新たなる展開を豫想されるに至つたが、右に關し陸軍側では左の如き見解を抱いてゐる

ソヴイエツト側が滿洲事變勃發以來示して吳れた親日親滿政策は吾人をして今更同條約の締結を要望するソ政府の眞意を問ふ必要を認めざる程である

ソ政府が不可侵條約を締結する事が眞に日本との親善增進となり、延いては極東の恒久的平和を確立するものとの理由から再提議するものであるならば、先づ滿洲國を正式に承認して良き隣邦たる態度を明確にすると共に多年日露間の紛爭をたときに於ては始めて茲に一定期間の不可侵條約を締結する用意を有するものである

而してソ政府側が之等を受諾せざる時は相互的に利害の一致を見るまで時期を待たねばならない

出淵大使の歸任挨拶

【ワシントン廿九日發國通】賜暇歸朝中の出淵大使は歐洲經由で廿五日午後ワシントンに歸任し廿九日米國國務次官カツスル氏其他國務省當局要人を訪ひ歸任の挨拶をなした

松岡代表 ムツソリーニ首相とも會見か

【ローマ廿九日發國通】イースタンブール觀光の旅を終へた松岡全權は、二十八日夕刻ベニスに到着し、市中見物の後、二十九日夕ローマに向けて出發することとなつた、松岡氏は恐らく一月四、五日頃までローマに滯在するものと觀られてゐる、氏のローマ訪問は單なる見學を目的とした非公式のものだが、ムツソリーニ首相との會見丈けは最後の機會に實現するものと見られる

日支紛爭問題に關し 英國裁判所員の論評

【ロンドン廿八日發國通】裁判所員カミングス氏は自由黨系の有力者を擁するクロニクル紙上に日支紛爭を論じて左の如く述べてゐる

聯盟が支那をして滿洲を牢記せしめるが如き決定を間もなく行はぬ限り日本の聯盟脫退を阻止し得ないものである事を認めざるを得ない、余は英國政府が人道主義的立場から日本を怒らせる樣な事な無いことを確信してゐるが若し日本が聯盟の事業に參加しなくなれば日本は支那との敵對行動に於て數ケ月を出でずして天津、北平を占領し、溥儀執政を皇帝に推戴し北支に緩衝國を建設するであらう、如何なる解決策をとるとも難點は依然として殘存する事は事實だが、寧ろ速かに聯盟と米國との協力を促進する事によつて軍縮會議の失敗を避け、日支乃至日米戰より延いては世界を再び戰亂の渦中に導くが如き危險を回避する事が賢明でなければならぬ

光は東方より
興安北分省の各教徒 皇軍を擧つて歡迎

二十七日興安省北分省內にある回教徒、猶太教徒、喇嘛教徒、キリスト教徒及在禮教徒の代表者は我○○司令部に出頭皇軍歡迎の意を表した其際彼等の述べた意見は夫々其信ずる宗教色に色づけられてゐるのが面白い、回教代表者は滿洲國建國を祝し、將來滿洲國に盡力を誓ひ、先づ日本軍の協力を衷心より感謝し、我戰歿者の靈を永く弔ふ事を誓ひ、猶太代表は日本人は正義を好む國民なるを以て日本人の援助を受くる滿洲の政治は將來必ず善政なるべく、過去二千年來自由と幸福を失へる猶太民族は滿洲國に樂土を發見するだらふ、キリスト教徒は永年支那軍閥の暴虐度の搾取にあひ只心の中の神のみを殘せる實情なり、今や日滿兩軍により治安は恢復せられ以て將來キリスト教徒は充分なる活動するを得べし、之眞に光は東方より來れりと云ふべし

滿洲里新領事赴任

【東京三十日發國通】滿洲里領事泉顯藏氏は二十九日午後九時四十五分東京驛赴任の途に上つた

西第一課長 桑港總領事

【東京三十日發國通】外務省通商局第一課長西春彥氏は明春早々桑港總領事若杉要氏の後任として轉任することに內定した

昭和七年の回顧

誠忠碑前の國旗
第四聯隊將士の手で揭揚さる

元旦曉「日の出を拜するつどひ」の行はるゝ西公園誠忠碑前に常揭揚の日の丸國旗は今般新調され十二月三十一日午前八時第四聯隊代表將士の手にて揭揚式を擧げた、誠忠碑には四聯隊將士にとつて忘れ難い戰友、南嶺寬城子に於ける名譽の戰死者の遺骨が眠つてゐる、建國の大業を成就して近く母國に凱旋歸還する勇士が揭げたこの新日章旗は新京市民への如何に尊い贈りみやげであらう

凱旋先發隊 卅日新京を出發

炎暑の原野に或は酷寒の北滿に從橫無盡に轉戰幾多の功績を殘した新京駐屯の此度凱旋する第四聯隊の先發隊三十名は三十日午後○時三十分發列車にて軍部日滿官民及學生に見送られ思出多き新京を後に懷しの故山へ出發した

大阪記者團來滿

酷寒の滿洲に活動する皇軍將士慰問の爲め大阪第四師團出入の新聞記者團昭星倶樂部の代表林孝彥氏は數々の慰問品を携へて今三十日朝新京に到着した、右昭星倶樂部は十二月一日大阪府市商工會議所及び第四師團の贊助並に東京大阪十九新聞社の後援で慰問金品の募集に着手、募集高は十五日に現金六萬六千圓慰問袋二萬餘個に達したので直に慰問袋六萬三千個を作製しその外に各中隊毎にカメラ、凧、その他正月用遊具を用意し、又別に各聯隊每に活動寫眞映寫機及四五卷づつのフイルムを軍司令部に撮影機を夫々寄贈するに決し今回林氏を代表として派遣し來つたものである

多門將軍 凱旋の日程

【仙台卅日發國通】北滿の野に武勳を輝かして凱旋する多門將軍の凱旋日程は左の通決定した、元旦を車中で迎へ二日釜山で乘船五日宇品入港當日廣島放送局から全國中繼で凱旋の挨拶をなし八日午後零時仙台着旅裝の儘管內戰死者遺族を訪問し廿二日夜上野發課長を從へ晴の都入りをなす廿三日は宮中に參內し天皇陛下に任務完了を奏上し廿六日日比谷公會堂の東京府市聯合會の歡迎會に出席し卅日は多門將軍自ら齋主となり第○○師團管下戰死者の追悼會を催す

第二旅團司令部及び步兵四聯隊將士
一月四日午前十時發內地凱旋

一九三三年の御ぐし上げと御着付
すゞらん美容院主 內田季子女史談

樂しい新春をむかへまた昨年末より今春にかけての最新流行のウエーヴのかけ方を申上げませう

先づ前の方を七三若しくは好みの御格構に御分け下さい七部の方は目ジリの上部に一本ハツキリコテ目を見せ下の方は耳かくしにします耳かくしのものを前に出さず下へさげ氣味にして耳の後からも寫眞の樣に一本ウエーヴを見せますサカ毛は中の方へ少し入れます根はなるべく下の方へ結ひまげは大きくエリ元へ細長くエス卷きにして載きますと大變無造作で和服との調和がとれて宜しゆ御座います御召物が華やかな場合には御つむにも造花でも御用ひ下さい

佐伯少佐 中佐に昇進

【東京三十日發國通】吉林線煙筒山に於ける匪賊歸順式に赴き兇變のため賊彈に斃れた步兵少佐佐伯武雄氏は中佐に昇進する旨昨日發表された

町尻侍從武官

【大連卅日發國通】町尻侍從武官は廿九日午後七時五十分當地着、星ヶ浦、ヤマトホテルに入つた、卅日旅順及大連の各機關を訪問し三十一日朝鮮經由で歸國の豫定である

初日の出を拜するつどひ

恒例「初日の出を拜するつどひ」は元旦午前六時新京神社々前集合の上西公園誠忠碑前の日の丸の丘にて行はれる、炎々と燃ゆる碑前の御神火に全身の熱をとりつゝ東雲を破つて昇る初日の雄大莊嚴なる姿を待ち黎明の瑞雲に一年中の總幸福を祈るこのつどひに全市民の參加を希望すと

三笠町に又 强盜

二十九日午後七時頃市內三笠町三丁目靴商曹會臣方へ二人組の强盜が客を裝つて入り來り店員に靴を出させ如何にも購入する如くに見せかくし持もたる小型拳銃を擬して店員にあて隣室に押し込め店員にあつた現金三十五圓と短靴一足を强奪逃走した

酉年生れの 藝妓とダンサー

今年は十二支のうち、酉の年に當ります、このお正月になつてから生まれたものは勿論十三、二十五、三十七、四十九、六十一、七十三の人々は皆酉年うまれであります、毎年此欄では、十三と二十五になる花柳界の人々を御紹介して今年は大に幸運に惠まれますやうにと祝福してゐけるの例としてゐます、去年の暮寫眞を集めにかゝりましたところ却々うまく集りませんでした、殊に今年は城內方面にすばらしく發展しつゝある花柳界をと思つて組合長に電話をかけてその材料集めを賴むつもりのところ旅行不在中でだめ、附屬地の方は此筋の台帳を調べて貰つたところ、千島の一菊、菊次、千歲い十郎、曙の千代松、色香、榮龍、南海の光勇、藝酒家の國滿洲、玉川の玉太郎、すみれの千代香、京子、曾我廼家の松吉、永樂の政彌、泰東の喜久龍、琴治、彌生の君香、千草の新京等々十七人を發見、それから寫眞借受けの交渉を始めたところ、鋼版調製の間にあつたのはすみれの千代香さんだけ、これでは興味が薄い、では同じ職業婦人のダンサー、女給方面でこれを求めやうとしたが、これもキャピタルに東京社交ダンス教師會の選拔により特派された國華のナムバーワン千葉一子孃だけ、おくれ馳せに手に入つた寫眞は藝妓で曾我廼家の松吉、女給でモナミの絹子等ありますが鋼版調製がおくれましたので改めておめにかけることに致しました、お正月元旦に寫眞をのせていゝ年をトリの年を祝福してゐけや～といふのに躊躇逡巡して寫眞を提供しないなんてヒラケない人々だと云つたところがしかたがない偖い何の因緣か、ダンス狂藝妓と云はれゐ千代香姐さん教養あり品行方正技倆優秀で推薦されて來たダンサー千葉一子孃とが仲なく一つの欄に顏をならべるなど妙です、寫眞上はスミレの千代香姐さん下はキャピタルの千葉一子孃であります

首相一家の晴がましさ

【東京廿九日發國通】葉山別莊に靜養中の齋藤總理は、四谷仲町私邸に歸り、首相として輝かしい始めての春を迎へるが來年元旦は早曉起床し春子夫人と明治神宮に參拜し夫妻孫の挑子さんと祝膳に就く祝膳にはユズリ葉干柿飾供へを之に添へ　新年を迎へる

昭和製鋼所設置問題

【東京卅日發國通】昭和製鋼所設置問題も政府側との交渉順調で伍堂理事は三十日夜離京歸任し本社側と打合せをなし七月上旬再び上京これが新設の最後決定を爲す筈

滿鐵中島氏寄附

滿鐵總務部新京在勤の中島五十治氏夫妻から同令息安治忌命をトし金二百圓を軍司令部に寄贈して來たので軍部は目下適當な使途を考慮中である

お正月の天氣 大丈夫宍戶所長が引受けた

お正月の天氣は？宍戶觀測所長さんにつきたづね氣壓の配置は最も好調子だからこの分でゆくと元旦のお天氣はおひきうけする、たゞ二日三日はどうやら怪しいやうですが、それかといつて大した變化はなささうです、寒さは天氣と正反對で寒ければ天氣よく、暖かければ曇または雪です、まあ順調な正月ですねー

謹賀新年
新京特別市
市長 金壁東

謹賀新年
盛京時報支社
湯畑正一

謹賀新年
合資會社 大同公司
入船町一丁目十三番

謹賀新年
フリジヤ美容院
常盤町一丁目六番地
中央通大阪屋覗向橫丁

謹賀新年
中央ホテル
中央通西公園前
電話〔三〕八六六一〇

恭賀新年
元旦封切二日間晝夜公開
新春の名拔粹巨篇あー其の麗姿を途に見ずトーキー絕對自信を獲保せさ蒲田が外國トーキーを凌駕する事を標榜する本格的映畫粹
松竹第三回オールトーキー 水谷八重子 主演
上陸第一步
脚色 北村小松　撮影 水谷至宏
監督 島津保次郎　錄音 土橋武夫
松竹下加茂超特作喜劇時代映畫
天晴れ久六
高田浩吉、柳さく子
阪東好太郎、千早晶子
小泉嘉輔 主演
松竹共營 長春座
新京商串映畫部提供
前期昭和七年度發行致しました招待券並た午勝手通用致しません何卒昭和八年度日附の券を御利用下さい

新京組合銀行團

朝鮮銀行支店

橫濱正金銀行支店

滿洲銀行支店

長春實業銀行

正隆銀行支店

いろは順

南滿洲鐵道株式會社

資本金一億圓（全額拂込濟）
本店東京日本橋通り
三井物產
新京支店

吉長
吉敦
鐵路管理局

地方委員
丸山直助

松茂洋行
手塚豐次郎

東亞煙草會社
新京駐在所
中山佐四郎

新京地方事務所
社會主事
宮池一元

錦町三丁目
長崎平次郎

城内四馬路
交進社印刷工廠
電話三二六五番

長春
窯業株式會社
吉野町一丁目
電話三八七一番

石炭貿易
松茂洋行

遼陽
岡田醫園支店
東四條通り
電話三一四六番

滿洲製油會社

ダンスホール
新京會館
新京ビル三階

ダンスホール
キャピタル
電話三八〇六番

サロンモナミ
電二一九三〇番